

## 第4回久慈市議会定例会議会議録（第3日）

### 議事日程第3号

平成27年12月9日（水曜日）午前10時00分開議

#### 第1 一般質問

新政会代表 山田 光君  
創政・公明クラブ代表 下川原光昭君  
社会民主党 豊巻 直子君

### 会議に付した事件

#### 日程第1 一般質問

#### 出席議員（24名）

1 番 豊 巻 直 子君 2 番 岩 城 元君  
3 番 小 倉 利 之君 4 番 黒 沼 繁 樹君  
5 番 山 田 光君 6 番 上 山 昭 彦君  
7 番 泉 川 博 明君 8 番 澤 里 富 雄君  
9 番 二 子 賢 一君 10 番 下川原 光 昭君  
11 番 桑 田 鉄 男君 12 番 畑 中 勇 吉君  
13 番 佐々木 栄 幸君 14 番 砂 川 利 男君  
15 番 中 平 浩 志君 16 番 小野寺 勝 也君  
17 番 城 内 仲 悦君 18 番 山 口 健 一君  
19 番 八重櫻 友 夫君 20 番 下 館 祥 二君  
21 番 高屋敷 英 則君 22 番 宮 澤 憲 司君  
23 番 大 沢 俊 光君 24 番 濱 欠 明 宏君

#### 欠席議員（なし）

### 事務局職員出席者

事務局長 澤口 道夫 事務局次長 嵯峨 一郎  
議事係長 皆川 賢司 議事係主任 長内 紳悟

### 説明のための出席者

市長 遠藤 謙一君 副市長 中居 正剛君  
総務部長 勝田 恒男君 総合政策部長 一田 昭彦君  
総合政策部次長 奈良 透君 生活福祉部長 和野 一彦君  
産業経済部長 浅水 泰彦君 建設部長 中森 誠君  
会計管理者 鹿糠沢光夫君 山形総合支所長 大森 正則君  
教育委員長 成田 不美君 教育長 加藤 春男君  
教育部長 澤里 充男君 選挙管理委員長 大沢 寿一君  
農業委員会会長 宇部 繁君 総務課長 夏井 正悟君  
(併)選挙事務局長

財政課長 久慈 清悦君 政策推進課長 重 浩一郎君  
農業委員会 泉澤 民義君 教育委員会 大橋 卓君  
事務局次長 田端 正治君  
監査委員事務局長

午前10時00分 開議

○議長（中平浩志君） ただいまから本日の会議を開きます。

直ちに本日の議事日程に入ります。

#### 日程第1 一般質問

○議長（中平浩志君） 日程第1、一般質問を行います。

順次質問を許します。新政会代表、山田光君。

〔新政会代表山田光君登壇〕

○5番（山田光君） おはようございます。それでは、第4回市議会定例会議において、新政会を代表し、登壇しての一般質問をいたします。質問は市長部局及び行政委員会に対し、多岐にわたる27項目、質問要旨も多くなりますが、このことについては、当選後、私の最初の登壇機会であることから、市民の声を直接届けることが大事との思いであり、ご理解を賜り、ご答弁をくださるようお願いを申し上げるものであります。

まず、市職員の分限・懲戒処分と年金制度一元化についてであります。幸いに、久慈市は懸念される職員の処分はないようではありますが、改めて一度、このことについて市民も職員も知っておくことが大切と考えることから、処分項目と処分を受けた場合、将来にどんな不利益を及ぼすこととなるのかを、もう1点は共済年金制度と厚生年金制度の一元化に伴い、職員にメリット、デメリットが生じるかについてお伺いいたします。

次に、補助金、負担金の交付について。

本年度における国・県関係以外の市が補助金、負担金を交付している団体数と、補助金、負担金それぞれの交付総額についてお伺いをいたします。

次に、公用車導入計画についてであります。地球温暖化対策として、自動車対策が大きな要素がありますが、当市の公用車の先進環境対応車の購入計画につ

いて、お伺いをいたします。

次に、久慈市まち・ひと・しごと創生総合戦略について。

1点目は、平成27年度から31年度まで5年間の計画が示されておりましたが、基礎戦略としてどのようなことが行われるのか。

2点目は、結婚、出産、子育て支援の具体的内容を。

3点目は、政策分野に結婚、出産、子育て支援がございいますが、現在までの取り組んできた結婚支援推進事業で婚活イベント補助事業や縁結び支援事業での成果についてお伺いをいたします。

次に、マイナンバー制度について。

当市においては、現時点では誤送付は発生しておらず、皆様への配送も終了しているものと安心しておりますが、庁内システムの構築やネット接続へのサイバー対策等事務作業の進捗状況をお伺いいたします。

次に、久慈広域行政研究会についてであります。久慈広域産業振興のためにも、三陸沿岸道の駅構想が大いに期待されておりますが、その進捗状況についてお伺いをいたします。

次に、町内会組織の強化について。

任意団体である町内会を市民協働のまちづくりに必要不可欠なものと考えますが、その強化策として、町内会連合会の結成呼びかけと町内会連合会に補助金を交付する考えがないか、お伺いいたします。

次に、地域コミュニティ振興事業の実施状況について。

現在策定中の久慈市総合計画で、重点戦略として日本一の地域づくりプロジェクトがあるが、住民協働や地域の支えが重要になると思うが、これまで行ってきた地域コミュニティ振興事業を活用し、補助を行った事業についての成果をお伺いいたします。

次に、いわて国体について。

当市負担があると思われるが、協議運営費の見込みと県の補助率についてお伺いをいたします。

次に、再生可能エネルギーについて。

市内海岸付近の調査に続き、山形町で風力発電導入に向けた調査を実施していると聞かすが、現在の調査結果と今後の見通しについてお伺いをいたします。

次に、高齢化対策について。

質問の1点目は、現在既に高齢化社会が到来し、全国的に介護職員の不足問題がありますが、市内事業者

の現状を。

2点目は、高齢年金生活者対象世帯の介護保険支払い世帯数と生活保護世帯数を。

3点目は、介護施設への入居待機者が多く、申請から入居までの時間がかかる実情をどのように見据えているのか。以上、3点についてお伺いをいたします。

次に、宇部川地区ほ場整備事業について。

ほ場整備事業を実施するための最初の説明では、完成時の地元農家の負担金を計2,700万程度と想定しているとのことでありましたが、今にしても、その額は変わらないのかを。

2点目は、農地集積が一部完成し、その管理を農地中間管理機構に委託した地権者がいるが、その耕作を誰がしているかわからない状況だとも仄聞するが、委託状況についてお伺いをいたします。

次に、農業用水路等の修理について。

一つの水路を農業用水路、市道側溝、雨水排水溝として使用している場合、その補修はどこが管理すべきものになっているか、お伺いをいたします。

次に、中小企業振興策について。

本年度中小企業振興資金融資制度を活用した事業者の総数を。

2点目は、近年経済情勢の変化の中で、中小企業は大変厳しい経営を強いられている状況にもありますが、計画的に持続的な支援の強化策についてお伺いをいたします。

次に、第2期中心市街地活性化基本計画について。

一昨日、12月7日まで行われてまいりましたパブリックコメントの主な内容と、久慈駅前整備等に対する市民意見の反映の考え方についてお伺いをいたします。

次に、三陸ジオパークについて。

当市が属する三陸ジオパークを久慈市の観光としてさらに発展させるために、三陸ジオパーク内の連携はもとより、近隣地域にとどまらず、日本各地のジオパークとの連携を深めることが必要であると思いますが、考え方を伺いいたします。

次に、土木行政について。

初めに、国道281号について。

平庭トンネル早期整備に向けた住民大会を10年以上にわたり整備促進運動が行われてきているが、今後の整備促進に向けた展望をどのように据えているのかを。

市道上長内平沢線については、平沢地区にかかる橋

の南北側の道路脇が崩れ、土のうを積んでいるが、車での通行の際、危険を感じている。その整備についての考えを。

次に、連結道路整備についてであります。野田村広内地区の中沢対岸に道路が新しく整備されたが、目と鼻の先となる久慈市分中沢団地への連結道路の整備の考えがないかを。

次に、市道三日町線について、仲小路付近の歩道側溝の段差等の整備補修を長年要望してきているが、なぜ整備が進まないのかを。

次に、青線管理について。

1点目は、青線未解決現場での事後の対応はどのように行うのかを。

2点目は、現在森中地区ほかの雨水排水路になっている国道281号大川目森中交差点を横断している青線を補修整備する考えがないか、お問い合わせいたします。

次に、教育行政について、教育委員長及び教育長に何点かお問い合わせいたします。

初めに、教育委員長にお尋ねいたしますが、当市の教育行政は、旧来の法律を適用したままの人事で進められていると思いますが、新制度で言う市長の権限強化という点は維持されているか、お問い合わせいたします。

次に、児童生徒間のいじめ問題について、4点お問い合わせいたします。

1点目は、昨今のいじめ問題に対する委員長の心境を。

2点目は、いじめは少なからずあると思うが、その調査方法と現在のいじめ実態を。

3点目は、保護者の児童虐待の現状をどのように認識しているかを。

4点目は、児童の権利を守る児童憲章を保護者に勉強させる機会をいつ実施しているかについてお問い合わせいたします。

次に、教育長におお問い合わせいたします。

保護者の教育費負担について。

教育費負担が最近では増加していると聞かすが、どういふ状況にあるか。過去3カ年の負担の平均額についてお問い合わせいたします。

次に、母子世帯の生活実態について。

低所得世帯が多いとお聞きいたしますが、この生活実態を、教育現場ではどのような形で把握し、またその世帯数と人数をおお問い合わせいたします。

次に、総合運動公園について。

総合運動公園基本構想の策定に当たり、10月15日の事務説明会で、9カ所から3カ所へ絞り込みは進められたことが説明された以降、昨日もその件についてご答弁があったわけでありましたが、最終候補地についての絞り込み過程がもう少しどのようになされてきたのか、その進捗状況を再度お問い合わせいたします。

次に、児童生徒の各種大会参加経費について、2点お問い合わせいたします。

1点目は、市で行われているスポーツ大会等で活躍し、県大会ほかに出場する際、バスの運行経費等の高騰で苦慮している状況にあるが、補助を増額する考えがないかを。

2点目は、経費捻出は保護者の悩みでもあり、補助金や寄附金に頼らざるを得ないところがありますが、各校が実施している経費の捻出方法について、教育長は全て把握認識しているのか、お問い合わせいたします。

次に、河川敷テニス場について。

市民体育館前の久慈川河川敷テニス場が、水害の都度被害を受け整備しているが、県も国も市も財政難で苦慮している状況の中で、移転計画がないか、また水害等における過去15年間の補修整備した回数をおお問い合わせいたします。

次に、アンバーホール自主公演事業について。

最近の自主公演事業は、いろいろな面でその成果を上げていると認識しておりますが、公演事業の選定方法を。

2点目は、過去3年間の公演ジャンル別件数と年度別予算金額についてお問い合わせいたします。

次に、18歳選挙権の導入について、2点、選挙管理委員長にお尋ねいたします。

来年7月に想定される参議院議員選挙における市内での該当者数を。

2点目は、投票率の向上に影響があると思うが、向上策を何か考えているのかを。また投票方法の工夫は何かあるのか、お問い合わせいたします。

次に、農業委員会の活動状況について、農業委員会会長にお尋ねいたします。

1点目は、遊休農地の試験活用の現状と課題は。

2点目は、活用作付面積とその収穫方法及び収穫物の利活用の方法を。

3点目は、平成26年度の委員会開催日数と委員の出

席状況を。

4点目は、農業委員会委員の任期延長理由と、委員の選任方法はどうか変わるのかを。

5点目は、過去3年間の農地法第3条、4条、5条における農地転用申請のそれぞれの実績を。

6点目は、農地中間管理機構とのかかわりはどのような場合が想定されるのか。また、かかわっている事案があれば、その内容を。

以上、6点についてお伺いいたします。

質問項目が多くなりましたが、新政会を代表し登壇しての私の質問を終わります。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

〔市長遠藤謙一君登壇〕

○市長（遠藤謙一君） 新政会代表、山田光議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、市職員の分限・懲戒処分についてお答えをいたします。

まず、分限処分は、心身の故障等のため、職務の遂行に支障がある場合等に行われるものであり、処分項目は免職、降任、休職、降給となっております。

一方、懲戒処分は、職員の義務違反に対する道義的責任を問うものであり、処分項目は、免職、停職、減給、戒告となっております。

また、将来への影響についてであります。懲戒免職の場合は、退職手当が支給されませんが、分限免職の場合は、退職手当が支給されることとなっております。

なお、免職以外の処分につきましては、その処分の重さに応じて、給与、昇給、昇任、退職手当、年金に影響していくこととなります。

次に、共済年金制度と厚生年金制度の一元化についてであります。今後の少子高齢化の一層の進展等に備え、年金財政の範囲を拡大して、制度の安定性を高めるとともに、民間被用者、公務員を通じ、将来に向けて同一の報酬であれば、同一の保険料を負担し、同一の公的年金給付を受けるという公平性を確保することを目的として、厚生年金制度に統一されたものであります。

職員にメリットが生じる部分については、共済年金と厚生年金の加入期間が通算されることにより、加給年金が支給される場合があること、デメリットとしたしましては、保険料率の引き上げ、遺族年金の転給制

度の廃止等があると認識いたしております。

次に、補助金、負担金の交付についてお答えをいたします。

本年度におきまして、市が補助金、負担金を交付している市内の団体数と交付総額であります。久慈市水道事業会計補助金、久慈広域連合への負担金及び希望郷いわて国体久慈市実行委員会補助金を除いて申し上げます。

11月30日現在で補助金は30団体、約1,568万円、負担金は30団体、約829万円となっております。

次に、公用車導入計画についてお答えをいたします。

当市の公用車導入におきましては、市長車をはじめとして、地球環境や経済性に配慮し、電気自動車やハイブリッド自動車、低公害車を優先して選定しているところであります。

現在、先進環境対応車両として、電気自動車1台、ハイブリッド車8台を公用車として使用しております。

今後とも公用車の更新等におきましては、使用実態を踏まえ、適正な排気量の車両を選択するとともに、ハイブリッド自動車等の低燃費、低公害車の導入に努めてまいります。

次に、久慈市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてお答えをいたします。

まず、5年間の計画期間における基礎戦略についてであります。昨日の市民共同代表、畑中議員にお答えいたしましたとおり、地方創生の取り組みに係る今後のスケジュールといたしましては、計画期間の平成31年度までの5年間において、安定した雇用の創出、結婚、出産、子育てへの支援、久慈市への人の流れづくり、震災からの復興と安全安心なまちづくりの4つの政策分野に掲げる各事業を推進してまいります。

次に、結婚、出産、子育てへの支援についてであります。総合戦略においては希望に沿った結婚、出産、子育てが実現できる社会の構築及び子供たちが伸び伸びと成長できる社会の構築を基本目標として、安心して子供を産み育てることができるとの一貫した支援策の充実と環境整備などを基本的な方針として取り組んでまいります。

次に、結婚支援事業についてであります。今年度から結婚支援イベント補助事業と縁結び支援事業を実施しているところであります。

結婚支援イベント補助事業につきましては、1団体

へ補助金を交付したところであり、1組の出会いが成立したと伺っております。また、イベント補助事業につきましては、今年度あと1回の事業補助を予定しているところであります。

縁結び支援事業につきましては、11名の縁結び支援員が登録しており、これまでに月1回の研修会や支援会議を開催し、スキルの向上を図っているところであります。

現在の支援状況であります。これまでに5名の結婚希望者から相談を受けているところであります。今後も縁結び支援員との連携を図るとともに、市民への情報提供を図りながら、結婚支援に努めてまいります。

次に、マイナンバー制度についてお答えをいたします。

まず、庁内システムについてであります。平成28年1月からの個人番号利用開始に向けた改修作業は順調に進んでおり、今後は平成29年7月から予定されている自治体間の情報連携開始に向け、システム及び専用回線の改修作業を、国全体のスケジュールに合わせて実施していく予定であります。

また、手続等の流れについてであります。通知カードや個人番号カードの各種手続及び申請書類の様式改正などのほか、情報漏えい防止に向けた安全管理措置等につきましても、万全を期すよう、しっかりと対応してまいります。

次に、久慈広域行政研究会についてお答えをいたします。

三陸沿岸道路の道の駅整備構想の進捗状況につきましては、昨日の市民共同代表、畑中議員にお答えいたしましたとおり、現在、国土交通省の震災復興官民連携支援事業を活用し、広域道の駅整備可能性調査を実施しているところであり、既存道の駅等類似施設の現況調査や管内事業者への参入意向調査、官民連携の検討などを行っているところであります。

次に、町内組織の強化についてお答えいたします。

当市では、本年度をふるさと未来づくり元年として、地区公民館を地域コミュニティの核とした、これからも住み続けたいまち・戻ってきたいと思うまちづくりに向け、ふるさと未来づくり事業に取り組んでおります。

市の協働によるまちづくりには、行政のパートナーである町内会の存在は欠かせないものと認識しており、

今後、ワークショップの開催などを通じて、住民の皆様の自主的な地域づくりの意識の醸成と、地域コミュニティの活性化を図ってまいります。

なお、ご提言のありました町内会連合会の結成等につきましては、まずは各町内会みずからその必要性などについて、ご検討いただくことが基本と考えてはおりますが、市といたしましても、関係者等と意見交換を行ってまいります。

次に、地域コミュニティ振興事業の実施状況についてお答えをいたします。

地域コミュニティ振興事業費補助金は、市内の各地域がそれぞれの個性を発揮し、活力ある社会を創出するため、市内で組織される団体が行う事業に対する経費に対して、対象経費の5分の4以内の額で、100万円を限度として交付しているものであります。

今年度は、12月1日現在、久慈地域で22件、山形地域で8件の申請を受け、約1,700万円の助成を決定しており、地域の環境整備事業や防犯防災の研修会、町内会や地区で行うイベントなどが行われ、世代間交流や地域の連帯感の醸成、にぎわいの創出など、コミュニティの活性化が図られております。

今後も継続して事業の提案及び事例の紹介などを行い、積極的な制度の活用を呼びかけてまいります。

次に、いわて国体についてお答えをいたします。

軟式野球競技における負担経費につきましては、本年7月に開催した第71回国民体育大会軟式野球競技連絡協議会において、負担割合の方向性を決定したところであり、その方向性に基づいて、現在、構成8市町村で具体的な経費負担の協議を行っているところであります。

久慈市で負担が見込まれる経費といたしましては、久慈市の会場辞退に伴い、各町村に改めに生じる経費並びに競技会開催に要する共通経費の競技役員分や競技別プログラム印刷費などの8市町村で均等割とする経費が考えられます。

また、来年2月決定予定の県交付金補助率につきましては、補助対象経費の3分の2を見込んでいます。軟式野球競技に係る県交付金は、久慈市が予備会場であることから、久慈市への交付は考えていないと、岩手県国体・障がい者スポーツ大会局より伺っております。

次に、再生可能エネルギーについて、お答えいたし

ます。

山形町内及びその周辺における風力発電関連の調査ですが、現在、山形町繋の寒長根山及び九戸村戸田と山形町荷軽部の市村境の2カ所で民間事業者による風況観測調査が行われており、調査が開始されてから、約1年が経過したところであります。

当該事業者からは、当初期待した風況を下回っているものの、引き続きデータの蓄積を図った上で、発電所としての評価検討を行う予定と伺っております。

また、山形町荷軽部の市短角牛基幹牧場、通称エリート牧場周辺においては、昨年度から環境省委託事業として、環境アセスメントに係る基礎情報の調査が行われておりましたが、去る10月末をもって調査が完了したところであり、その結果については、今後環境省のホームページ等で公開される予定と伺っております。

次に、高齢化対策についてお答えいたします。

まず、介護職員の市内事業者の現状についてですが、介護職員の不足は、全国的な問題として報道されているところであり、岩手県内においても同様の傾向であると捉えております。

当市における現状であります。市内介護事業所は、適正な人員配置の上、運営されていると認識しておりますが、施設の運営推進会議や各種介護事業所との情報交換等の中で、介護職員の高齢化や、新規雇用の早期退職者が多いなどの話は伺っているところであり、県で実施している介護人材資質向上支援事業等を活用しながら、介護職員の確保に努めてまいります。

次に、老齢年金受給者世帯における介護保険料支払い世帯数及び生活保護世帯数についてですが、年金制度は個人の加入であり、受給状況も多様であることから、年金受給者数でお答えをいたします。

平成26年度末における当市の老齢年金受給者数は1万1,897人となっておりますが、介護保険料は、所得に応じた負担を全員からいただいているところであります。

また、生活保護世帯に属する老齢年金受給者数は、本年11月末現在で142人となっております。

次に、介護施設の入居待機者の状況についてですが、本年4月1日から適用された介護保険制度の改定により、特別養護老人ホームの入居者は、原則として要介護度3以上の方とされたところであります。

市内の入所を希望している方の状況は、本年4月1日現在で、希望者146人、そのうち早期入所が必要な方が29人となっているところであります。

次に、宇部川地区ほ場整備事業についてお答えいたします。

まず、地元農家の受益者分担金についてですが、県北広域振興局によりますと、事業の当初認可時である平成25年度時点における見込み額は2,400万円程度でありましたが、事業着手後において軟弱地盤対策が必要となったこと、また震災復旧事業の本格化に伴う資材費等の高騰により、総事業費を増額せざるを得ないことから、3,400万円程度に上昇する見込みであると伺っているところであります。

次に、農地中間管理機構への委託内容についてですが、同機構が行う農地中間管理事業は、作付をしない農地を借り受け、地域の担い手等へ貸し出しを行う農地の賃貸借業務となっております。

農地所有者が同機構へ貸し出す際は、耕作者を指定せず、いわゆる白紙委任により耕作者の決定を同機構へ委ねるものとなっております。このことは、耕作者が効率的に営農ができるように、農地の集約化を図ることを考慮しているものであります。

一方、同機構が借り受けた農地を耕作者へ貸付配分する手続といたしましては、市が農用地利用配分計画案を作成し、農業委員会の同意を得た後に、同機構と耕作者との賃貸借契約が締結されることとなります。

市の配分計画案の策定に当たりましては、宇部川地区営農組合で実施いたしました作付等の意向調査をもとに進めているところであり、貸付配分後の耕作者の情報につきましては、農地所有者側へ提供を行ってまいります。

次に、農業用水路等の補修についてお答えいたします。

農業用水路等の管理については、それぞれの施設の設置者及び使用者が管理するべきものと認識しております。

しかしながら、近年の農業離れ、耕作放棄地の増加等の状況から、受益者を有しない農業用水路も増加傾向にあると認識しているところでもあり、雨水排水路等との兼用となっている施設の維持補修等につきましては、総合的な観点から検討していく必要があるものと考えております。

次に、中小企業振興についてお答えいたします。

まず、本年度の中小企業振興資金融資制度を活用した事業者についてですが、平成27年10月末現在で63件であり、内訳は運転資金が44件、設備資金が17件、運転資金、設備資金併用が2件となっております。

次に、中小企業に対する計画的継続的な支援の強化策についてですが、市におきましては、企業の経営安定化を図るため、中小企業振興資金融資制度の活用促進に努めるとともに、被災事業者への支援として、県単独の融資制度であります中小企業経営安定資金融資への利子及び保証料の補給を行っているところであり、また、意欲ある起業家や新事業の展開に取り組む企業に対しましては、久慈・ふるさと創造基金や国県などによる補助制度の提案、岩手大学や試験研究機関等との連携による技術支援を行っているところがあります。

商品開発、販路拡大及び新分野進出による競争力の強化の支援といたしましては、本年度において復興庁が当市等で取り組んでいる地場企業と大手企業とのマッチングのための地域復興マッチング「結の場」事業など、関係機関が実施する支援事業にも積極的に取り組んでいるところであります。

また、雇用対策といたしましては、今年度、新規学卒者の地元定着を促進するため、新卒者雇用支援奨励金制度を改正し、新たに学卒者本人への奨励金交付制度を設けたところであります。

今後におきましても、久慈商工会議所及び金融機関などの関係機関と連携し、各種支援策を継続強化してまいります。

次に、第2期中心市街地活性化基本計画についてお答えをいたします。

久慈駅前整備にかかわり、社会資本整備総合交付金を活用するため、昨年3月に都市再生整備計画を策定したところでありますが、市民の声を十分に反映させるため、ワークショップの開催等により、当該計画の内容を見直してきたところであります。

12月7日期限で実施いたしましたパブリックコメントは、その変更案について、市民の皆様の声を幅広く聞くことを目的としたものであり、今後は提出いただいた意見等を参考に、当該計画を取りまとめ、年内に予定されている国の来年度予算に係る本要望を提出することとしております。

次に、三陸ジオパークについてお答えいたします。

三陸ジオパークが、日本ジオパークに認定されてから、2年が経過いたしました。三陸ジオパークは、当地域の魅力を発信し、交流人口拡大につながる新たな観光資源であるとの認識に立ち、当市の取り組みといたしましては、ガイドブックの作成、講習会の開催等を実施してきているところであります。

ご提言のありました各地域ジオパークとの連携についてですが、本年8月に東北ジオパークフォーラムを当市で開催し、東北の各ジオパークと今後の展望や課題、連携強化について意見交換を行ったところであり、また、三陸ジオパーク協議会には、島原ジオパークから上席ジオパーク推進員を派遣いただき、各地域との連携に寄与いただいているほか、糸魚川ジオパークでの研修視察や日本ジオパーク全国大会への参加など、世界ジオパーク認定地域を中心に、連携を図っているところであります。

今後におきましても、各地域ジオパークとの連携を深め、交流人口拡大を図るとともに、日本ジオパーク再認定及び世界ジオパーク認定を目指し、鋭意取り組んでまいります。

最後に、土木行政についてお答えをいたします。

まず、一般国道281号の平庭トンネル整備の展望についてですが、一般国道281号は、県都盛岡市と県北沿岸地域を結ぶ産業振興にも寄与する重要路線であると認識しております。

一般国道281号平庭区間の整備につきましては、昨年11月に岩手県と葛巻町との三者による意見交換を行い、一体となって取り組んでいくことを確認したところであり、今年度においては、国土交通省及び東北地方整備局と道路整備の促進について意見交換を行ったところであります。

市といたしましては、トンネル整備を選択肢の一つと考え、平庭区間の冬期間の安全な交通の確保と、90分構想を実現する抜本的な道路改良について、引き続き、国県に対して、強く要望してまいります。

次に、市道上長内平沢線についてですが、当該路線は、国道45号上長内地区から久慈総合運動場を經由し、二子小袖沢線につながる路線で、県道野田長内線の迂回路の一つとなっている重要路線と認識しておりますが、路肩が崩壊した箇所があり、車両通行の安全性を確保するため、10月14日に大型土のう等による

応急的復旧を実施したところであります。

今後におきましては、現地の状況を踏まえ、整備の方向について検討してまいります。

次に、連結道路の整備についてであります。野田村の広内地区と中沢地区を結ぶ林道中沢広内線は、県道野田長内線が波浪等の影響により通行不能となった場合の代替路線として機能することが期待されておりますが、新たに想定されている連結道路は、山地で地形が険しいため、多額の事業費が見込まれることから、現在のところ、整備計画は持ち合わせていないところであります。

次に、市道三日町線についてであります。旧国道281号が移管され、市道編入された道路であり、歩道を含めた側溝等道路施設の老朽化が進行していることから、順次更新を図る必要があると認識しております。

側溝等道路施設の更新には、多額の費用を要することから、緊急度、老朽度、財政状況等を勘案して補修を実施し、適切な維持管理に努めてまいります。

次に、青線管理についてであります。いわゆる赤線、青線等の法定外公共物は、平成12年度に施行された地方分権一括法の趣旨にのっとり、平成16年度以降、それまで所管していた国及び県から当市に譲与されたところであります。

この中で、筆界未定地のまま譲与を受けた法定外公共物につきましては、譲与を受ける以前と同様に、住民の方々のご協力をいただきながら、市において管理に努めているところであります。

また、筆界未定地の解消につきましては、筆界未定となるに至ったやむを得ない当時の経緯があったものと捉えており、その解消は容易ではないと認識しておりますが、個々の情報収集等に努めながら、関係者と協議し、筆界の確定を目指して取り組んでまいります。

最後に、雨水排水路の整備についてであります。当該区間は、国道281号森前交差点付近から、久慈川までの区間で天然の河岸となっております。排水路の整備につきましては、洪水の被害状況や現地調査等を踏まえながら、財政状況等も勘案し、整備について検討してまいります。

以上で、新政会代表、山田光議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 成田教育委員会委員長。

〔教育委員長成田不美君登壇〕

○教育委員長（成田不美君） 新政会代表、山田光議員のご質問にお答えいたします。

最初に、改正地方教育行政法についてお答えいたします。

教育委員会は、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保するため、首長から独立した合議制の執行機関であります。教育行政における責任を明確にするため、改正後の地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、教育委員長と教育長を一本化した新教育長を置き、その新教育長は首長が議会の同意を得て、直接任命することとされました。

ただし、経過措置により、現教育長が在任する間は、従前の例によるとされていることから、教育委員長と教育長が置かれております。

なお、首長と教育委員会の連携強化を図り、一層の民意を反映した教育行政を推進していく目的で、首長の主宰で開催される総合教育会議については、今年度から設置し、6月と11月に開催しております。

次に、児童生徒間のいじめ問題についてのご質問にお答えいたします。

これまで学校教育現場では、いじめに対して生命を尊重する態度の育成、アンケートや教育相談によりトラブルの早期発見、対応など生命尊重の視点に立った指導に努めてまいりました。

このような中、県内の中学生がみずからの命を絶つという痛ましくかつ悲しい事案が2年連続で起こったことは、大変遺憾に思っております。

今回起こった事案の発生を重く受けとめ、子供のいじめはどの学校でも、どのような児童生徒にでも起こり得るという認識のもと、より一層、市内各小中学校における生命尊重を基盤とした教育と、いじめ防止の取り組みを充実させていかなければならないと感じております。

次に、いじめの調査方法といじめの実態についてであります。市内小中学校においては、学校いじめ防止基本方針を策定し、その方針にのっとり、児童生徒や保護者からの情報収集を目的に、定期的なアンケート調査の実施や、児童生徒から直接聞き取る教育相談を行っております。

また、児童生徒の学校生活における表情などの日常観察や生活記録ノートから、生徒の心情を読み取る等



いじめの把握に努めております。

調査は年度初めに文部科学省が実施する児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査と、久慈市教育委員会が学期ごとに実施するいじめ実態把握調査があります。

市内小中学校におけるいじめの実態ではありますが、本年7月に実施しました調査の結果では、小学校の認知件数は18件、そのうち解消は12件、中学校の認知件数は11件、そのうち解消は4件となっております。

解消に至っていない事案については、現在、各小中学校において解消に向けた継続支援を進めております。

次に、児童虐待についてであります。全ての児童は心身ともに健やかに育てられ、その生活を保証されるべきものであります。しかしながら、昨今、痛ましい事件が後を絶たないことは、大変遺憾なことであり、社会全体で取り組むべき課題であると認識しております。

久慈市教育委員会としては、各小中学校の校長先生方に対して、虐待の疑いがある場合には、すぐに連絡を入れていただくよう、常にお願いをしているところでございます。

また、虐待の事実あるいは疑いがある場合には、久慈市要保護児童対策地域協議会の構成メンバーが連携し、横のつながりにより情報を共有し、当該者の観察の強化や指導支援により対応しております。

次に、児童憲章を保護者が勉強する機会についてお答えいたします。

全ての児童の幸福を図るために、昭和26年に制定された児童憲章ですが、その趣旨を踏まえ、保護者等を対象に、家庭教育基盤形成事業として、小学校においては子育てやしつけなど家庭教育についての講座を、また中学校においては、思春期における心と体の発達や深刻化する青少年の問題行動についての講座を開催し、家庭の教育力の向上に努めているところであります。

また、PTAなどを対象に情報モラルやいじめ等の人権に関する研修会や、子育て支援センターでの親子ふれあい教室や食育教室などを開催しているところでございます。

以上で、新政会代表、山田光議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

〔教育長加藤春男君登壇〕

○教育長（加藤春男君） 新政会代表、山田光議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、保護者の教育費負担についてお答えをいたします。

当市では学習塾等を含めた教育に係る保護者の負担額についての調査は行っていないところでありますが、学校で集金しております保護者負担額の平成27年度の平均年額は、小学校では約2万1,000円、中学校では約3万4,000円となっております。

また、学校集金額については、過去3年間において大幅な変動がないと、各学校から伺っております。

次に、母子世帯の生活実態の把握についてお答えをいたします。

経済的な理由により、就学が困難と認められる児童生徒の保護者につきましては、就学援助費の支給を行っており、全児童生徒の家庭に制度の周知を図りながら、学校経由で申請をいただくことにより、把握しているところであります。

就学援助の対象数は、本年11月1日現在、493世帯、児童生徒数は763人であり、このうち、ひとり親世帯は277世帯、児童生徒数379人であります。

次に、総合運動公園整備事業についてお答えをいたします。

候補地3カ所からの絞り込みについては、昨日の政和会代表、黒沼議員ほかにお答えいたしましたとおり、南田地区を第一候補地としたところであります。

次に、児童生徒の各種大会参加経費についてお答えをいたします。

児童生徒が学校の教育課程に基づく特別活動として開催される各種大会に出場した際には、久慈市小中学校文化体育大会補助金交付要綱に基づき、一定の条件のもとに大会参加に係る交通費、宿泊費、大会参加料の補助を行っております。

また、スポーツ少年団への県大会等への参加経費についても、久慈市体育協会を介し、支援を行っているところであります。

各種大会の参加経費の支援につきましては、市スポーツ振興号などの市所有バスの有効活用等も含め、学校や児童生徒の負担を軽減できる方策等を研究してまいります。

次に、各種大会に参加する際の経費捻出方法の把握、

認識についてでございますが、教育委員会の補助以外の部分については、参加者負担やPTA会費等で賄われているものと認識しておりますが、各学校の規模や大会規模等により、それぞれ状況が異なるものと捉えております。

次に河川敷テニス場についてお答えをいたします。

久慈川河川敷テニス場は、久慈川河川公園内に設置された施設であり、大雨等によりたびたび浸水の被害を受けているところであります。

久慈川河川敷テニス場の移転についてであります。現在策定中の総合運動公園基本構想の中で、テニスコートの整備も位置づけているところであります。

また、過去15年間の水害等による補修整備をした回数であります。中央公民館前コート、久慈小学校前コートともに、台風、低気圧、東日本大震災の被害により、3回の補修を行ったところであります。

最後に、アンバーホール自主公演事業についてお答えをいたします。

まず、公演事業の選定方法についてであります。アンバーホールの永峰高志芸術監督兼館長の提案を軸に、県内等のホールで共有するネットワーク情報や、各種助成金を確保できる事業等について検討し、自主事業を選定しているところであります。

また、平成24年度から平成26年度までの過去3年間の公演ジャンル別の件数でございますが、クラシック10件、ポピュラー1件、演劇6件、映画3件、吹奏楽、合唱に係る育成事業の成果発表6件等となっております。自主事業に係る年度別予算金額は平成24年度3,164万9,000円、平成25年度3,339万5,000円、平成26年度3,029万7,000円となっております。

以上で、新政会代表、山田光議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 大沢選挙管理委員会委員長。

〔選挙管理委員長大沢寿一君登壇〕

○選挙管理委員長（大沢寿一君） 新政会代表、山田光議員の18歳選挙権の導入についてのご質問にお答えいたします。

18歳への選挙権引き下げにより、来年執行予定の参議院議員通常選挙において、18歳及び19歳の方の投票が可能となり、久慈市におきましては、新たに約700人の方が対象となる見込みであります。

次に、投票率の向上対策についてであります。新

有権者となる方々への選挙啓発が重要であると捉えております。その対策としては、防災行政無線や街頭啓発、フェイスブックを活用し、投票を呼びかけるほか、去る11月24日に、県立久慈高等学校長内校において、岩手県明るい選挙推進協議会及び同協議会久慈支部と合同で実施した選挙啓発授業や模擬投票などの試みを今後も継続してまいります。

以上で、新政会代表、山田光議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 宇部農業委員会会長。

〔農業委員会会長宇部繁君登壇〕

○農業委員会会長（宇部繁君） 新政会代表、山田光議員の農業委員会の活動状況についてのご質問にお答えをいたします。

最初に、遊休農地の試験活用の現状と課題についてであります。農業委員会では、平成17年度から国の機構集積支援事業補助金を活用し、耕地整備、播種及び草刈り作業等に、農業委員みずからが参加する遊休農地解消事業を実施しております。

遊休農地の解消は、農業従事者の高齢化が進む中、個々の農家だけでは困難な状況にあり、集落営農組織や認定農業者等担い手への集積が今後の大きな課題であると捉えております。

農業委員が農家とともに「人・農地プラン」の見直し、実践活動などに積極的にかかわりながら、その推進に努めてまいりたいと考えております。

次に、活用作付面積とその収穫方法及び収穫物の利活用方法についてであります。平成17年度から平成27年度までの遊休農地解消事業の累計面積でございますが、約2.4ヘクタールとなっております。

また、作付した農作物の収穫は、農業委員を含めた地域の認定農業者等に作業を委託しており、収穫したそばや大豆は、地域の女性部の協力を得ながら、試食会を開催したところであり、また飼料用米については、地域内の畜産農家に提供しているところであります。

次に、平成26年度の委員会開催日数と委員の出席状況についてであります。委員会の開催日数は合計で12回であり、委員の出席状況は、委員総数30名に対して、月平均で26.3名となっております。

次に、農業委員会委員の任期の延長と委員の選任方法についてであります。現在の農業委員の任期満了日は、平成27年10月14日でありました。農業協同組合

法等の一部を改正する等の法律が平成27年9月4日公布されたことから、同法附則第29条第1項の規定によりまして、現在の農業委員の任期が平成28年3月31日まで延長になったところであります。

また、委員の選任方法につきましては、このたびの農業委員会等に関する法律の改正により、平成28年4月1日から、現在の公選制から議会の同意が必要な市長の選任制へ変わることになっております。

次に、農地転用申請にかかわる過去3年間の実績についてであります。農地法第3条申請につきましては、平成24年度が33件、平成25年度が21件、平成26年度が22件となっております。

また、第4条申請につきましては、平成24年度が10件、平成25年度が17件、平成26年度が13件となっております。第5条申請につきましては、平成24年度が48件、平成25年度が56件、平成26年度が47件という実績になっております。

次に、農地中間管理機構とのかかわりについてであります。農地中間管理機構は、農地を貸す者と借りる者との間に入り、農地の集約化を推進し、農地の有効活用や農業経営の効率化を進めるため、平成26年度から設置されたものであります。

岩手県の場合には、岩手県農業公社が、その役割を果たしているところであります。農地を貸す「出し手」と借りる「受け手」が存在した場合に、農地中間管理機構の依頼により、市では農用地利用配分計画案を作成することとなり、農業委員会では、市の求めに応じ、この農用地利用配分計画案に意見を具申するものであります。

現在、宇部川地区ほ場整備事業に関連して、宇部川地区営農組合が、農地中間管理機構を活用した農地の集約を進めているところであります。

以上で、新政会代表、山田光議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 関連質問を許します。2番岩城元君。

○2番（岩城元君） 山田光議員の一般質問に対して、関連して質問をいたします。

質問項目4の③でございますが、現状、婚活イベント補助上限が20万円と設定されておりますが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で取り組むべき大きな課題の中に、結婚、出産、子育て支援がございます。

これに伴い、補助事業が現在より拡充されるのか、お伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 結婚支援イベントの補助金についてでございます。

今年度、新しい事業として発足したわけですが、今年度は想定事業数2件ということで考えておりましたが、これにつきましては、今後、要望等があれば、この拡充についても考えてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 2番岩城元君。

○2番（岩城元君） ありがとうございます。縁結び支援員の方々のスキルアップということで活動されておるようですが、今後のスケジュールといったものはどのようになっているのか、お伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 縁結び支援員の今後のスケジュールということでございますが、現在、月1回のペースで研修を実施しております。その中で、研修をはじめ、あるいは情報交換、そういうものを行っているわけですが、これにつきましても、今後、支援員の持っている情報を突き合わせながら、セッティングと申しますか、出会いの場、そういうふうな場面まで持っていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 2番岩城元君。

○2番（岩城元君） ありがとうございます。5名ほどの相談件数があるというご答弁でございましたけれども、この方々についてはデータベース化と申しますか、支援員がいつでもマッチングというか、閲覧できるような状況にあるのでしょうか。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 希望者の情報ということでございますが、支援員の間ではその情報は共有しております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 2番岩城元君。

○2番（岩城元君） ありがとうございます。それによってマッチングを進めるということですので、いずれ今後人数はふえていくと思っておりますので、よろしくお

願います。

婚活イベントについては、申請があれば補助を出すというような流れになっているようですが、市として、もっと積極的に婚活イベントを行う、仕掛けるといった意向はあるのでしょうか。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） これにつきましても、1回目は団体があったんですが、2回目募集したときには、団体がございませんでした。それで、また今回、募集をかけている状況でございますので、これにつきましても、積極的に働きかけを行ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 2番岩城元君。

○2番（岩城元君） お隣といいますか、近くの八幡平市さんでは、年間五、六回のイベントを行って、結果についても、全てホームページのほうに公表して、今回のイベントでは、何組の成立というような積極的な対応をしているようですので、いずれその辺もご指導いただきながら、参加すれば出会いがあるんだというようなアピールの仕方も考えていただきたいと思えます。よろしく願います。

続きまして、質問項目の8番、地域コミュニティ振興事業についてお伺いいたします。

1,700万円ほどの補助を行ったということです。それこそ地域の活性力というか、魅力発信になっていくものと思えます。昨日、畑中議員さんが質問された指定管理の中でも、今後コミュニティセンターという位置づけでもって進めていくということでしたので、大変いいことだなとも思っています。

この中で、地域コミュニティ振興事業も絡めた活動をされればよろしいのかなと思えますが、加えて地元出身の例えば職員の方々、地域の現状とか実情を踏まえた方が入るような指定管理制度というか、余地があるのか、お伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 公民館のコミュニティセンター化につきましては、まずはそのような方針で進めたいということで、指定管理につきましては、各地区のいろいろな事情等もございますし、機運が盛り上がった、そういう受け入れてもいいような状況が、体制が整った時点では、将来的に考えております。

そういう部分で、今、地域未来づくり事業ということで、各地区に入って、その機運の醸成と地域のコミュニティは地域の人たちが中心でやるんだと、そういうような意識の醸成を図っているところでありまして、ご提言の地元出身のそのような方のいろいろな活躍の場というの、今後いろいろ勉強してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 2番岩城元君。

○2番（岩城元君） ありがとうございます。本当に地元を愛する職員の方もいっぱいいらっしゃると思いますので、連携をとりながら進めていただきたいと思えます。

次に、項目の11の①ですけれども、介護職員の不足が問題となってくるという、いろんな報道がございますが、現状はまず充足しているということのようですが、それこそ職員の高齢化、それと早期退職という部分が問題になってくるというご答弁をいただきました。

この中で、例えば市として、資格者を養成する機関等の設置といったものについては、例えば介護福祉士をとるとか、ヘルパーをとるとか、そういった講習機関を設ける考えがあるのかないのか、お伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） ただいまお話がありましたその点につきましては、これから高齢化が進むと、介護の必要な方が、対象の方がふえていくというふうな状況でございます。

現在では、久慈市内にそういう資格を取れる学校等が全くないというふうな状況でございます。資格をとるためには、市外に出なければいけない。経費負担が大きいというお話もありますし、久慈市にとっては、その人材育成が非常に重要になっているというふうに思っておりますので、今後はそういった専門学校の誘致、立ち上げ含めて、これについては今一生懸命前向きに考えているところでございます。

○議長（中平浩志君） 2番岩城元君。

○2番（岩城元君） 前向きにご検討されているということで、ありがとうございます。地元で仕事をして、地元で暮らしたいという若い方が働きながら資格取得を目指すというような環境があれば、ますます地元

にいたいと、定職する方々がふえるのかなと思います。

ちなみに、品川区の情報ですけれども、社会福祉協議会さんのほうで、そういった専門学校を開設して、養成機関も持っているということのようですので、その辺もいろいろ資料をいただきながら、実現に向けて努力いただければと思います。

以上で終わります。ありがとうございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） それでは、山田議員の質問に関連いたしましてご質問させていただきます。

質問項目の14番目の②と15番目、16番目と、時間があれば、20、22番目についても質問させていただきます。

それでは、項目順にお聞かせいただきたいと思ます。

初めに14番目、中小企業振興についての②計画的な継続的な支援の強化策ということでお聞きいたします。

利子補給をしていると、新規学卒者へは直接交付をするというお話もありました。登壇した山田議員からもご質問させていただきましたけれども、久慈市内における事業所は、中小零細企業がほとんどでございます。

ことし4月発行の久慈市の統計書によりますと、市内には1,881の事業所があります。そのうち1人から2人の事業所というのが1,214事業所、65%ほどとなり、それを10人未満の事業所とした場合には、1,531の事業所となります。

単純に数字だけで見ますと、8割を超えることとなります。これら多くの事業所が市内の経済に果たす役割というのは、卸小売業を中心にしまして、飲食や生活関連のサービス業など、地域の雇用等に極めて大きく影響を与えているものであります。

しかし、近年、特に人口減少や国内の経済成長率の低下などによりまして、社会経済状況の変化があり、市内の中小零細企業は、大変困難な厳しい経営を強いられております。

以前の一般質問、3月だったと思ますけれども、中小企業小規模事業者の支援についてのところで、ご答弁では、商工会議所のつくる計画に沿って推進策を充実し、中小企業、特に小規模事業者の経営安定に向け、取り組むというご答弁もいただいております。

借入金の一部負担とか利子負担等、直接的な支援策

としても重要でありますけれども、もう1歩踏み込んだ方策としまして、久慈市独自の中小企業振興条例なども考えられないでしょうか、この点をお聞かせください。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま中小企業振興にかかりまして、そういった振興のための基本条例の制定の考えはないかというお尋ねでございます。

議員おっしゃいますとおり、非常に地域の状況いたしますと、まさにその誘致企業はもちろん積極的に誘致活動はしているわけですが、やはり由来からその地域で活動していただいている事業者の方々のその経済活動による地域の成り立ちというものが大きいものがあるというふうに考えているところでございます。

お話のございました条例の制定の考え方ということでございますが、現在、県内では県がそういった条例を制定しております。それから市町村のところでは、一関市と北上市のほうで既に条例が制定されているということでございまして、今後それらの先進的な部分を学びながら、いずれこういった条例の制定に向けて、進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 今もご説明があったように、今年度当初ですけれども、県として中小企業振興条例を制定いたしております。

これによりまして、県では販路の拡大とか新たな地域資源の発掘、小規模企業者への支援等計画的に継続していくということとなりまして、そのほかにも財政上の措置もでございます。

このように、久慈市として、中小企業基本振興条例を制定することによりまして、市内事業者の8割にも及びますけれども、小規模事業者と中小企業者全体に今後の経営の意欲を持ってもらいまして、事業者の継続的な発展を計画的、総合的に支援しまして、市内での物流と資金の地域内循環を推進することが、当市における中小企業振興条例制定の意義と考えますけれども、その辺のご所見をお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま条例に基づいてのいろいろな部分でのサポートというふうなことのお話がございました。まさにそういったことを目的

として、条例は設置されるものだろうということでございまして、いずれどのような支援が必要かということが、まずはそこところが課題の整理が必要かなというふうに思っておりますので、そういったことをサポートできるような条例の内容としていくように研究してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） いろんなサポートが必要ということでございました。私たち議員からの条例提案も考えながら、これからの当市の地域経済発展の道筋を開くためにも、中小企業振興条例というものを制定いたしまして、市内事業者の計画的、継続的な支援の強化策としていただこう、今後も検討して、続けていただきたいと思いますと考えます。

次に、質問項目の15番目、第2期中心市街地活性化基本計画についてでございます。

こちら、ワークショップでの意見を踏まえながら、見直しもというお話もありました。パブリックコメントが12月7日までの期限で行われておりますけれども、この件数というのは、どれくらい来ているのか、お聞かせください。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） パブリックコメント、お話がございましたとおり、7日までの期限で募集をいたしまして、4名の方から意見の提出がございました。それぞれ複数のご提言ということでございまして、4名から11点ほどのご提言をいただいているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 4名の方からということでございました。5月から6月にかけてまして、3回開催されております駅前整備ワークショップということがありますので、ここでも多くのご意見をいただいておりますので、それほどパブコメをいただいたということでも、内容的にはそんなに変化がないようなものとも考えます。

そこで、この久慈駅前整備というのは、国土交通省の地方都市リノベーション事業というのを活用しているということになると思いますが、パブリックコメントに出されている新旧対照表というのが公表されてお

りますけれども、事業変更前の全体事業費が18億5,600万円ということで、変更後の事業費が19億2,400万円と、6,800万円ほど増加しております。

変更後に削除された事業が多く見受けられますけれども、事業費がふえた要因というのをお聞かせください。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま議員からご紹介がございましたとおり、変更前と変更後で事業費が6,800万円ほど増加となっております。

この要因ということでございますが、変更前は、複合施設、これを図書館につきましては、サテライト的なものというふうなことで、検討しておったわけですが、これを今、新中の橋にあります市立図書館、これを全館移転するというふうな方針の中で、それについては、非常に建築物として、まずは強固な構造を要するというふうなことで、その建設単価が上がったという部分がございます。

それから、そもそもその建設単価につきましては、震災影響によって、もとの数字といえますか、もとの積算の基礎の部分が相当に上がっているというふうなことがございます。

ということで、今回の事業費が多少その事業を削ったにもかかわらず伸びているという大きな要因といたしますと、その建設コストの部分ということになります。

その他、用地補償等につきましては、おおむね従前の基準の中でおさまっているというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 建築物の単価が上がったということでございます。これは久慈駅の南側に駅前複合拠点施設を建設する計画となります。複合施設内に設置される事業費の交付対象事業箇所としては、2,209.3平方メートルとなっておりますけれども、複合拠点施設全体での強固な建物で、その全体の面積と構造というのは、どのように考えているのでしょうか。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいまの質問は、複合施設の建築面積ということでよろしいでしょうか。3階建てのRC構造ということで考えておりますが、

面積については、おおよそ3,300平米程度ということになります。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 3,300平米ということでございましたが、交付対象2,200ちょっとでございますので、残りの1,100ぐらいがそのほかの交付対象以外のものということになると思いますが、この辺が物販スペースということになりますでしょうか。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 物販のスペースにつきましては、現在、国との協議の中でやはり大規模な変更ができないと。新規計画ではなくて、従前あった計画の変更ということでやっておりますので。

大変失礼いたしました。先ほど私、3,300と申しましたけれども、おおよそ2,300の間違いでございまして、今議員からお話ございました2,200、これが対象となるということで、残りの100平米程度が今、想定している民間に委ねる部分というふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 1,100だと、ちょっと大きいなというふうな思いもしました。100平米ということでございます。地域交流センター、観光交流センター、図書館という事業費は、合計で12億2,600万となりますが、先ほどの物販スペースというのは、その対象にならないということになると思いますけれども、そちらの物販スペース100だけの事業費、そこだけだとどれぐらいの事業費をお考えでしょうか。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） そこだけという部分では、現在特出ししておらないわけなんです、一応全体の平米単価が45万程度となっておりますので、そういった中では4,500万ないし5,000万程度というふうなことで考えられるかと思えます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 事業費については、大方わかりました。駅前整備の部分から外れますけれども、関連がありますので、図書館についてお聞きしたいと思うんですが、現在の中央公民館から図書館部分が全移

転ということでお話をいただきました。

この図書館を全て移転いたしますと、中央公民館の図書館というところがあくこととなりますけれども、その活用方法として、計画案の中を見ますと、郷土資料保存スペースで活用するというふうに示されております。

もとの長内中学校が、現在郷土資料館ということで保存スペースとなっておりますけれども、同様のような保存スペースとするのでしょうか。図書館移転後の施設が、要件がいろいろあるんでしょうけれども、叶うのであれば、有料の資料館とすとか、地域の皆様が集まる施設とか、例えば観光ボランティアのセンターとか、いろいろ考えられると思いますが、現時点での利用法は郷土資料保存スペースとしてだけのお考えでしょうか。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 既存図書館の移転後のあいた部分の活用策ということでございます。これについては、現在、公共施設等の総合管理計画というふうなものが総務部のほうで作成し、そしてその具体策を検討中ということでございまして、これについては1案として、そういう活用があるということでの情報提供ということで受けとめていただきたいと思いますが、いずれ、今後におきまして、あのスペースをどのように活用していけばいいかということについては、今後関係部課含めて詰めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 一案としてということですので、今後いろいろな広範囲に使用目的が考えられると思いますので、皆さんが利用できる事業を考えていただきたいものと思えます。

駅前整備に戻りますけれども、計画案の中で、目標及び計画期間の2枚目の目標を定量化する指標ということが書かれておりますが、そこが複合施設利用者が11万2,000人、イベントの参加者が13万1,550人というのが、1割増しかかという数字が見受けられますけれども、歩行者の自転車通行量というのはね5,508人から5,514人ということで、6人の増加というのは、人的回遊性というものを考えれば、余り回遊性を考えてないような数字にも見受けられますが、その辺の出

し方というか、算出方法というのは、どのようになっているのでしょうか。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま自転車、歩行者の部分の数字の出し方ということでございました。これにつきましては、第1期計画の中でも目標に掲げているという中で、毎年調査し、実績を報告しているということがございます。

そういった中から出てきたものであって、非常に微々たる数字の異動ということになっておりますが、実績を勘案した中での将来を見通したものというふうなことでご理解をいただきたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 実績をとということですが、もっと多くの人に回遊していただきたいような方策というのを考えていっていただきたいと思っております。

次に、質問項目の16番目の三陸ジオパークですが、こちらは、さまざまところでも連携はしているということになりますけれども、過日、私、遠藤市長の親書を携えました。日本琥珀研究会というところの一行としまして松江と出雲に表敬訪問してきました。

そこでの話、いろんなところにも行きましたけれども、連携なり市として姉妹都市という話も出ましたけれども、大きな連携を進めていけば、もっともって交流人口もふえるのではないかというお話もいただきましたが、その辺のご所見をお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ジオパークにかかわっての、もっと他地域との交流というふうなお話でございました。

先月、使節団、訪問団の結成をいただきまして、出雲、松江のほうに表敬していただき、そこでは市長の親書も携える中で、非常に相手方からも感嘆をいただいたと。非常に好意的な受けとめ方をいただいたということで、大変ありがたい活動だったなというふうに考えております。

いずれそういうことを一つのきっかけとして、もっともってほかのジオパーク地域とも連携を深めながら、そしてできれば、世界ジオパーク認定となれるように、この地域の魅力を発信していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 6番上山昭彦君。

○6番（上山昭彦君） 最後に短くですが、運動公園整備事業についてですが、こちらは南田地区というふうに言ってますけれども、私ども地元の人とかですと、南田というと、田んぼだけをイメージいたします。そうしますと、山林というお話もあった中で、名前を南田地区ではなく、別な名前をつけるということではできないでしょうか。

○議長（中平浩志君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 正式な名称については、いろいろ考えていかなければならないと思います。地区という形で、南田ということでエリアということで捉えさせていただきます。

以上でございます。

○6番（上山昭彦君） ありがとうございます。以上です。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。

○7番（泉川博明君） 山田議員の一般質問に関連いたしまして、何か質問させていただきます。

まず第1に、質問項目の10でございますけれども、この再生可能エネルギーについてですが、市といたしましての方針は、民間事業者や大学などの研究機関と連携し、再生可能エネルギーの導入を積極的に進め、地域の活性化が図られるよう取り組むと掲げておりますが、久慈地区拠点工業団地のメガソーラー設置事業が、送電線への連携負担が増大したことにより、中止となったばかりでございます。

お尋ねいたしますが、この仮称、久慈・九戸風力発電の導入予定区域の送電線への連携は、どのような状況にあるのか、お伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 奈良港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（奈良透君） 今、議員からお話がありましたとおり、沿岸地区においては、送電網の容量がいっぱいいっぱいという感じではあるんですけども、今の市長からご答弁させてもらった山形町地区においては、現計画では、県央のほうはまだ容量がいっぱいというか、つなげる可能性がありますので、山形町から県央のほうへ事業者が送電網を設置する計画で考えていると伺っているところでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。



○7番（泉川博明君） この件につきましての2点目といたしまして、今フランスではパリ郊外で開催中のCOP21では、温暖化対策について、各国が議論中で、会期は11日までのようでありますが、温室効果ガス削減は、世界全体の問題ではございますが、当市久慈市でも木質バイオマス利用や太陽光発電などのさらなる導入、そしてまた久慈・九戸風力発電事業につきましても、実現に向け、じっくりと時間をかけて関係機関と協議し、少しでも温暖化防止に協力できればと考えてますが、ご所見をお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） ただいま議員お話がございましたように、地球温暖化対策が喫緊の課題というふうになっております。あわせて、こちらの地域でやはり化石燃料に対する家計の支出が大きいというふうな状況がございます。

久慈市全体でも70億も超えるとも言われておりますので、きのうの質問でもございました地域で経済を循環させると。地域で地域のお金をいかに回すかという観点からも、個人の太陽光発電、住宅への設置等も、これをやりますと、住宅メーカーへの仕事も出る、電気関連会社にも仕事が回るということがございますし、化石燃料への支出額も減らせるというふうにも考えておりますので、それにつきましては、そういうトータルでの経済効果も考慮しながら、お話ありましたように、これからも息長く、しっかりと地道に着実に進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。

○7番（泉川博明君） 沿岸部のこの風力発電事業については、送電線への連携がまずいということで、音がなくなってきたのでございますけれども、久慈市でも1カ所ぐらいは風力発電事業の導入があってもいいのではないかと考えております。ご答弁は要りません。

次に、質問項目の17の（2）土木行政についてでございますけれども、答弁のとおり、ご承知のとおり、この小さな橋の上下の道路脇が崩れ、現在は大きな土のうを2カ所に設置して通行いたしております。

これから寒さも増し、雪などの時期に入りますので、川の水かさが増す心配はないとは思いますが、豪雨などで増水になりますと、崩落の危険がございますので、安全第一でございますので、早目の整備が必要であると考えます。

私もこの道路をたびたび利用している1人でございますが、橋を通行する際に、両サイドに手すりといいますか、欄干といいますか、設置なされていないので、注意しながら運転しておりますが、崩落現場の整備と並行いたしまして、安心・安全のためにも設けるべきと考えますが、ご所見をお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） 議員おっしゃっております場所です。今、仮復旧ということで、大型土のうを設けております。現場のほうには、今、デリネーターしかございません。できればガードレール等を設置したいんですけども、なかなか急なところに立っておりますので、その辺は真つすぐに打てるような状態ではないような現況といいますか、形状になっておりますので、もう少し検討させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。

○7番（泉川博明君） 今部長のご答弁では、急なという表現をいたしましたけれども、別にあそこは急ではないですよ、私から見ますと。

そこら辺も考慮しながら、現在は短管か何かみたくて、補修と一緒にやっているみたいですけども、その二、三十メートル下手のほうには欄干がついております。上手の一方の小さいあれには、余り大きくない橋なんだけれども、それにはついてないんですよ。だから整備すると同時に、経費もそんなにかからないとは思うんですけども、何とか安全のためにも設置すべきかなと思っておりますけれども、再度お伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） そこから少し下流のほうになりますけれども、欄干があります。ただ、今、この間崩れたところは、ヒューム管を巻きたてたような形状の橋といいますか、管渠になっております。

そういうことで、高欄をつくるには、コンクリートの地覆がなければどうしようもできないということで、現場のほうに行きますと、土どめのウイングといいますか、壁だけですので、なかなかそこにびたつつけられないということで、私は上流側のほうはいいんですけども、下流側のほうはがけになって、なかなかガードレールみたいなのをすぐに打ち込めないということです。

そういったことがありますので、今後とも検討させていただきたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 技術的になかなか困難な部分もあるということですが、できるだけ早く復旧できるように努力してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。

○7番（泉川博明君） ありがとうございます。

次に、同じ項目の（3）でございますけれども、先ほどの答弁では、現在は持ち合わせていないということでしたが、この県道野田長内線、広内中沢線のこの海岸線は、先ほども市長が申されておりましたとおり、しげが来るとたびたび通行止めとなることにより、大変支障を来しているのが現実でございます。

この広内地区の上から野田村、中沢地区37地割に道路が整備されまして、現在市道となっておりますが、夜になると、道幅が余り広くなく狭いので、交差する際、不安を感じながらの運転であると仄聞をいたしております。

また、災害時により、万が一、久喜地区防災センターと久喜小学校間の通行止めになりますと、集落が孤立の可能性が大でありますことから、久喜地区中沢団地上から、野田村広内間の連結道路の整備が必要であると考えます。

遠藤市長さんも、地区民の要望はお伺いいたしているとは思いますが、課題解決に向け、鋭意努力すべきと思っておりますが、私からもご所見をお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 先ほどの答弁では、この路線につきましては、現在のところ整備計画を持ち合わせてないというご答弁をいたしました。

これから先、ずっとやらないということではないですが、約1キロの整備が必要となっておりますので、これにかかる財源としてということでございます。久喜地区の万一の避難道路につきましては、平沢の工業団地に抜ける道路の整備のお話もございましたので、現時点では、複数の路線に手をかけるというふうな財政、体力がございませんので、そういう面では、地元の皆さんとこれからお話をしてまいりますが、優先順位をつけて取り組むと、検討するというふうに進めさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。

○7番（泉川博明君） 今、市長のご答弁では、1キロぐらいということですが、この現在整備されております広内中沢線ですか、野田村の、この道路に連結するのがベストであり、測量をしてみてもわかると思いますが、距離的にも直線で私の推測だけれども、300メートルぐらいじゃないかなと思っております。

まず、調査測量を実施してみるべきと思いますが、考えをお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 議員からは、300メートルぐらいじゃないかというお話がありますので、それについても、現地を見させていただいて、その上で考えてまいりたいというふうに思います。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。

○7番（泉川博明君） 参考までに申し上げておきますけれども、以前はこの久喜地区中沢団地付近から、広内まで赤線かどうかは私確認いたしておりませんが、道路がございまして、利用しておりました。これは、報告だけでよろしいです。

次、若干時間がありますので、質問項目の23の①スポーツ大会などに出場する際に、バスの運行費等が高騰し、苦慮しているようだがということなんですけれども、この件につきましては、何か最近、バスの運行費が以前より高騰をしているため、遠征費、例えば中学校で活躍して、県大会に出場するとか、東北大会に出場しますと、このバスの運行費が高騰したため、すごく苦慮しているということでした。

それで、私たちの地区なんですけれども、どうにもならないということで、寄附を集めたんです、3地区で。北からいきますと、小袖地区、三崎地区、小袖沢地区、そして久喜地区、全体で4地区ですか、それで百十四、五万でしたか、集めまして、使い切れなかったけれども、それは次年度に繰り越すということでやった経緯がございまして、今後ともこれを教育長さんがどのように考えているかわからないけれども、活躍した方がいいが、お金がかかるという傾向があるみたいなので、検討してもいいのではないかなと思っておりますが、ご所見をお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） バス代が高騰していると

いう事実については、やはりそういった状況はあるよう  
でございます。そういった部分については、いろいろ  
お伺いしているところでございます。

教育委員会といたしましては、各県大会とか東北大会、  
それから全国大会に向けては、一定の部分、一定の決まりに  
のっとりまして、補助しているところでございます。

その中で、きょうも教育長のほうからご答弁申し上げた  
んですが、補助を上げられれば非常にいいんですけども、  
それ以外の部分でも、例えば公用車を活用するとか、教育  
委員会で持っておりますスポーツ振興号とか、それから市役所  
全体で持っておりますバスとかもあります。

そういった運行についても、検討しながら、できるだけ  
ご父兄の負担が軽減されるような形で研究してまいりたい  
というふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 7番泉川博明君。

○7番（泉川博明君） 今、大変参考になるようなご答弁を  
いただきました。久慈市にもバスがふえたみたいなので、  
それを利用するようなこととか、大変いい案だと思います  
ので、そこら辺も考えながら、ひとつよろしくお願いを  
申し上げまして、私の質問を終わります。どうもありが  
とうございました。

○議長（中平浩志君） 8番澤里富雄君。

○8番（澤里富雄君） 山田議員の質問に関連して、  
何かお伺いをしたいと思います。

時間の制約がありますので、質問項目順にならない  
ことをお許し願いたいと思います。

まず最初に、質問項目11番の高齢化対策について、  
③の介護施設の入居待機者についてお伺いをしたいと思います。

このことは、さきの11月に行われました私ども議会  
報告会で市民から出された事案でありますので、最初  
にお伺いをしたいと思います。

施設入居者が、先ほどの答弁で146人、大体いつ聞  
いてもこれぐらいの待機者がいつもいるという状況が  
あるわけですが、なかなか順番が進まないということで、  
介護者を持つ家庭では、大きな不安を感じているよう  
です。

この待機者の数ですけれども、確かな待機者の数であ  
ればいいんですけども、これは1人の人が何カ所

も申し込んで、それが待機者数としてカウントをされて  
いるのではないかなという思いがあるんですけども、もし  
そうであれば、施設間の情報、連絡をとりながら、一元  
化した正確な待機順番を示すことによって、この待機者  
を持っている家庭は、少しは安心ができるのかなという  
思いがしますけれども、その点を1点お伺いしたいと思  
います。

そしてまた、申し込みをしますと、介護待機100何  
番ですとか言われますけれども、この在宅介護のために  
仕事をやめる、やめてうちで見るというような状況、  
そういう状況の中で、100番以上ということで、いつ  
まで待つのか、大きな不安、そしてさらには経済的な  
苦痛も受けているわけですが、最近、在宅介護に疲れて  
介護殺人とかいうのも、たびたび報道されますけれど  
も、本来、介護保険をそれぞれ負担しているわけですが  
、こういった事案をなくすためにも設けられたものでは  
ないかなと思うがあるんですけども、この介護者を抱  
えている家庭の心労を軽減する対策についての考えにつ  
いても、あわせてお伺いをいたします。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 介護施設の待機者の  
件でございましたが、先ほど市長も答弁で申し上げま  
したが、早急な入所が必要な方が、平成27年4月1日  
現在で29人となっておりますが、昨年5月に小久慈地  
区に小規模の養護特別老人ホームが開所いたしました。  
これは29名の定員でございますし、また同月同じ5月  
に旭町地区に認知症の対応型のグループホーム、これ  
は9床でございますが、これも開所をしております。

その点で、幾分か緩和はされているのではないかと  
いうふうには考えておりますが、また今年度から3年  
間の計画でございますが、その中では、認知症対応型  
の通所介護施設、これが1カ所、それから小規模多機  
能型居宅介護1カ所、それから認知症対応型グルー  
プホーム1カ所、この3つの施設が3年間で計画をさ  
れておりますので、こういうふうな施設を整備しなが  
ら、待機者の解消を図ってまいりたいというふうにと  
考えております。

待機者の各施設間のダブリがないかというお話で  
ございますが、これはあるというふうには認識をして  
おります。

これにつきましては、この数値の捉え方につきまし

ては、久慈広域連合でまとめた数値でございますので、これにつきましては、正確な数値が反映されるようなお話をしてみたいとうふうに考えております。

○議長（中平浩志君） 8番澤里富雄君。

○8番（澤里富雄君） 時間がなくなりますので、ぜひこの在宅介護者を持っている家庭のこの情報共有できるようなサロンみたいな、地域包括支援センターみたいなものもあるんですけども、そういった方法で、広域でやっているということでもありますけれども、できるだけ正確な待機者数を介護者に報告するようにしていただきたいと思っております。

次に、3の公用車導入計画についてでありますけれども、これは排出量削減に寄与するために、次世代自動車、先進環境対応車というふうですけども、国の補助金がありますけれども、これは県の補助金もあるのかどうか、あればその内容。

それから、この補助制度は、自治体でも利用できるのか、お伺いをいたします。

○議長（中平浩志君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） 公用車の購入について、県の補助なり公用車でも受けれるかどうかというふうなご質問でございますが、今ちょっと資料がないんですけども、通常であれば、公用車に対する県の補助というのは、ないだろうというふうに捉えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 先ほどの答弁の訂正をお願いいたします。待機者の重複があるというふうに答弁を申し上げましたが、これにつきましては、精査をして、待機者の重複がないような形で資料を作成しているというふうに、広域連合から聞いていますところでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 8番澤里富雄君。

○8番（澤里富雄君） 過ぎたことですからあれですけども、続けて3の公用車についてお伺いしたいと思いますけれども、自治体では使用できない。先ほどの答弁では、EV車、いわゆる電気自動車が1台、それからハイブリッド車が8台ということでもありますけれども、最近、見受けるに、非常に電気自動車等々、次世代自動車が県内外のナンバー、走って見えますけれども、これに対しての充電インフラ整備、これはまだ

まだ進んでいないのが現状でありますけれども、この電気自動車満タン充電で約150キロぐらい走ると言われておりますけれども、久慈盛岡間300キロぐらいあるわけですけども、途中で充電しなければならないのかなという思いがあるわけですけども、家庭のコンセントからも充電ができるんですけども、これは非常に時間がかかる。8時間でしたか。時間がかかるんですけど、急速充電にすると早く充電できるということですので、これはただ、200ボルトの電圧が必要なことから、一般家庭では電気工事をしなければならないわけですけど、こういったものの充電設備の補助についても、あるのかどうか。一般家庭は必要ないかもしれないですけども、これから普及されるのではないかなという思いがありますけれども、既に一般の人でも乗っている方もおいでになると思っております。

あわせて、この充電設備ですけども、私が見受けるには、岩手県の道の駅、石神の丘ですか。あそこに設置してありますけれども、これは先ほども申し上げたとおり、全国各地からこういった車でおいでになる方がおいでになりますけれども、電気自動車で来る観光客対応のためにも、この久慈の道の駅、土風館ですか、こういったところに設置すべきだと思いますけれども、そのご所見をお伺いしたいと思いますし、また私たちが視察に行きますと、市役所等で設置しているところが、非常に最近ふえているようなんですけども、それもあわせてご所見をお伺いしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） 最初にまず充電設備への補助というご質問でございました。これについても、補助制度があるのかどうか、捉えてはおりませんけれども、普及を図るということで進めているわけですので、徐々にはではありますけれども、補助制度等も検討されてくるだろうというふうに考えております。

それから、市の充電設備ですけども、議会棟下で電気自動車の充電を行っております。あとは、議員がご指摘のとおり、電気スタンドがなかなかないということで、市としても、近距離の場合は電気自動車を使いますけれども、ちょっと遠いところに出張という場合には、ハイブリッドといえますか、普通の自動車を使うというようなことで対応しているところでございます。

それから、土風館に電気自動車の充電設備をという

ことでございますが、これにつきましても、それはや  
っているということのようでございます。

私からは以上でございます。

○議長（中平浩志君） 奈良港湾・エネルギー推進担  
当部長。

○総合政策部付部長（奈良透君） 土風館に今年度、  
充電設備を1基つける予定で、今計画は進んでおりま  
す。

以上です。

○議長（中平浩志君） 8番澤里富雄君。

○8番（澤里富雄君） ありがとうございます。

次に、6の久慈広域行政研究会についてお伺いした  
いと思えますけれども、時間がないので、率直にお伺  
いしたいと思えますけれども、1,000万ほどの国の予  
算がついてやっているわけですけれども、これは久慈  
広域の産業振興やあるいは雇用の拡大にもつながるわ  
けですけれども、率直に申し上げて、今市長は、この  
実現の可能性について、どのように捉えているのか、  
お伺いしたいと思います。

また、あわせて、この道路は、移動時間の短縮など、  
暮らしの利便性の向上においては、大いに期待される  
わけですけれども、その反面、素通りによります中心  
市街地の交通量の減少で、商店の衰退化が心配されま  
すけれども、既に普代道路が開通して、普代の商店街が  
非常に衰退の傾向にあると言われておりますけれども、  
研究会では、こういった素通りに対する勉強会みたい  
なを行われているのかどうか、お伺いいたします。

私は「ぐれっと！やまがた街道祭」というのをこと  
し行ってみたくんですけど、結構他県ナンバー、秋田ナ  
ンバーとか八戸ナンバーとかいうお客さんが来ていま  
す。この「ぐれっと！街道祭」を久慈広域版で周遊す  
るようなのをやればいいのかないかなという思いがあり  
ましたが、久慈広域にはたくさんの題材があると思いま  
す。あまちゃんのロケ地、これも広域に分布しております。  
それから、ジオパーク、先ほども出しましたが、ジ  
オパークも広域に分布していると、こういったたたく  
さんの資源があるわけですけれども、この久慈広域のエ  
リアをそれぞれ回っていただければ、いろいろ効果  
があるのではないかなと思いますけど、この広域のエ  
リア、狭いエリアの中で、それぞれがイベントをするよ  
り、広域が一つになって、大々的に宣伝をして、久慈  
広域全体が活性化されるような体制をつくれればい

かなと思いますが、あわせてご所見をお伺いいたしま  
す。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 現在、勉強会を開催しており  
ます大規模な道の駅の設置につきましてでございます  
が、議員お話のありましたように、ともするとバイパ  
スができる、あるいは高速道路もできるということ  
によりまして、街が通過されるだけというふうなところ  
も全国的に出てきております。

それを避けるためには、足をとめてもらう、おりて  
いただく、そういう拠点が必要であるというふうにか  
えております。

管内におきましては、一旦おりていただいて、あと  
はその地域を小まめに歩いていただくということが必  
要だと思っておりますが、そういった魅力のある場所  
がなければ、北から来て、八戸で休憩をして、宮古あ  
るいは陸前高田まで一気に移動してしまうというふう  
なこと、あるいは南から来て、そういうふうになり  
かねませんので、現在、東北自動車道を見ても、やは  
りお客様がいらっしゃいますのは、ある程度の規模  
のあるパーキングエリアというふうになっております  
ので、そういう観点からも、この施設については、広域  
4市町村で力を合わせて、ぜひつくっていかねば  
ならないと思っております。

財源的には、昨日からいろいろ議論いただいております  
けれども、久慈市の財政、非常に厳しい状況の中  
で、これから大規模事業にも取り組んでいくとい  
うことでございますので、やっぱり財源の確保、どこか  
ら資金を工面するかということが非常に重要にな  
ってまいりますので、現在、国がこの事業について  
も非常に関心を持っていただいておりますので、他  
県の同様の事例からいきましても、国の事業費の  
導入、きのもご提案ありました。それ以外にも、  
国の関与を求めていく、あとは岩手県も広域の  
整備であれば、ぜひ話を聞かせてくださいとい  
うふうな申し出もあります。あわせまして、PFI  
とか民間企業も参加いただけるような、そ  
ういう仕組みづくりをしなればいけないと思  
っておりますので、これについては、簡単には  
いえないんですけど、ここはみんなで知恵を絞  
って、しっかりとこの施設づくりを取り組んで  
まいりたいと思っております。

これがつけれないと、単に通過される地域になりか

ねないというふうに思っております。これがつくれれば、地元の海のもの、山のもの、特産品を売る場所がしっかりつくれる。雇用も生まれる、所得も上げれると、そういうふうな非常に大きなメリットを持っていると思っておりますので、議員の皆様からも、これはお知恵をぜひお貸しいただきたいというふうに思っております。

○議長（中平浩志君） 8番澤里富雄君。

○8番（澤里富雄君） ぜひ実現に向けて努力していただきたいと、このように思います。

時間がないので、最後になるとは思いますけど、4のまち・ひと・しごと創生総合戦略、②ですけれども、結婚、出産、子育てへの支援についてですけれども、結婚については、先ほど岩城議員のほうから質疑がされましたけれども、ことし竹下医院さんがお産の取り扱いをやめるということですが、そのことによって、常勤医が1人しかない、県立久慈病院、しかもここは正常分娩だけに対応するということがありますけれども、高齢出産、あるいはハイリスクな出産は県立二戸病院――

○議長（中平浩志君） 澤里議員、下川原さんの質問にもその部分が入ってます。午後からのやつで入りますので、その辺配慮いただきたいというふうに思います。

○8番（澤里富雄君） 端的に、これにかかわる交通費あるいは宿泊費等、アクセスに関する行政の考えについて、お伺いをしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） アクセスに関する助成の件でございますが、これにつきましては、昨日、市長からもご答弁申し上げましたが、交通費あるいは家族の宿泊費につきまして、補助を検討するというところで、今進めておりますので、ご理解願います。

○議長（中平浩志君） 8番澤里富雄君。

○8番（澤里富雄君） どうもありがとうございました。以上で終わります。

○議長（中平浩志君） 奈良港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（奈良透君） すみません。先ほど答弁漏れがありましたので、補足させていただきます。電気自動車の充電器の補助なんですけれども、家庭用の補助はないですが、国の補助制度がありまして、不

特定多数の方が使えるようなものに対して、2分の1から3分の2の補助があるようです。

それからその不特定多数というのは、ガソリンスタンド、コンビニ、宿泊施設、道の駅等が対象となっているということで、補足させていただきます。

○議長（中平浩志君） 関連質問を打ち切ります。

この際、昼食のため、休憩といたします。再開は午後1時15分といたします。

午後0時12分 休憩

午後1時15分 再開

○議長（中平浩志君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を継続します。

次に、創政・公明クラブ代表、下川原光昭。

〔創政・公明クラブ代表下川原光昭君登壇〕

○10番（下川原光昭君） 私は、平成27年12月第4回定例会議に当たり、創政・公明クラブを代表し、諸課題14項目18点について、市長、教育長並びに選挙管理委員会委員長に、通告の順に従って質問いたします。

第1の質問は、久慈湊地区の震災復興について、2点質問いたします。

1点目は、東日本大震災津波から、あさってで4年9カ月になりますが、当地域の復興状況についてお伺いいたします。

2点目は、湊地区に建設予定の津波避難タワーの進捗状況についてお伺いいたします。

第2の質問は、久慈市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてであります。

本年10月に策定を終え、国に申請しておりますが、その後、国からどのような審査・評価になっているのか、お伺いいたします。

第3の質問は、マイナンバー制度についてであります。

市民理解が進んでいないと思われるマイナンバー制度への制度周知、利用促進に向けた当市の取り組みについてお伺いいたします。

第4の質問は、道の駅整備構想についてであります。

本年9月に予算化された道の駅整備可能調査に係る震災復興官民連携支援事業の進捗状況についてお伺いいたします。

第5の質問は、大成橋丁字路への信号機設置につい

てであります。

通勤・通学時間帯に交通渋滞が発生し、地元住民から信号機の設置要望があり、交通安全確保のために信号機は必要であります。実現の可能性について伺いたします。

第6の質問は、福祉行政について4点質問いたします。

1点目は、学童保育についてであります。

各学童保育施設の利用状況と久慈市学童保育連絡協議会の要望を受けて、今後の施設整備及び運営に対する支援について、お考えをお伺いたします。

2点目は、地域医療体制の強化についてであります。

平成19年5月から、産婦人科医師の県立久慈病院への集約化により、ハイリスク分娩は行われない状況になります。県立久慈病院産婦人科医師確保に向けて、今後、市としてどのような対策を考えているのか、お伺いたします。

3点目は、ひきこもり対策についてであります。

本年6月、二十以上のひきこもりについて、民生児童委員の調査から、男性42人、女性17人、合せて59人という調査結果を受け、今後、市としての取り組みと対策についてお伺いたします。

4点目は、子育て支援サービスの充実についてであります。

若い世代のサービス利用を見込んで、スマートフォン専用アプリによる子育て支援サービスに取り組む自治体も出てきている中、当局としても取り組むべきと思いますが、考え方を伺いたします。

第7の質問は、木材の地産・地消についてであります。

地元産材の利活用に向けて、今後、当局としてどのように活用していくのか、考えをお伺いたします。

第8の質問は、第2期中心市街地活性化基本計画についてであります。

この12月に予定されている本要望を提出し、その国からの交付決定を受け、来年度から事業着手する駅前再開発整備に向けての進捗状況についてお伺いたします。

第9の質問は観光振興について、2点質問いたします。

1点目は、まちなか水族館についてであります。

海女センターのオープン、もぐらんぴあ再建が予定

されております。これまでに、中心市街地の観光、にぎわいに大きく貢献しているもぐらんぴあ、まちなか水族館を歴史・文化展示施設、ビジターセンターなどとして利活用すべきと思いますが、考え方についてお伺いたします。

2点目は、北海道新幹線開業についてであります。

当局は、体験型・交流型観光の受け入れ、特に体験型教育旅行の受け入れが年々増加しております。このことを踏まえ、来年3月の北海道新幹線開業を見据えて、教育旅行受け入れの観光客誘客策の考え方について、お伺いたします。

第10の質問は、住宅用太陽光発電システムについてであります。

住宅用太陽光発電システムに係る設置補助状況と住宅用蓄電池についても補助対象にすべきと思いますが、考え方についてお伺いたします。

第11の質問は、空き家対策についてであります。

今や全国的に深刻な社会問題となっている空き家の本市の現状とその対策についてお伺いたします。

第12の質問は、大川目地区の汚水処理についてであります。

公共下水道は、当局全体の汚水計画があるわけですが、大川目地区の汚水処理については、農業集落排水事業の導入が有効と思われませんが、考え方についてお伺いたします。

第13の質問は、教育行政について、2点質問いたします。

1点目は、学習定着度状況調査についてであります。

市内小中学校の調査結果をどのように捉えているのか、また、今後の改善策についてお伺いたします。

2点目は、総合運動公園整備についてであります。

本年11月末までに、候補地3地区から1地区に絞り込むとしていた取り組みの進捗状況についてお伺いたします。

第14、最後の質問は、18歳選挙権の導入についてであります。

来年夏の参議院議員選挙には、18歳と年齢が引き下げることになりますが、新たな有権者数と合計の有権者数、また、若年層の投票率向上に向けた取り組みについてお伺いたします。

以上、登壇しての私の質問を終わります。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

〔市長遠藤謙一君登壇〕

○市長（遠藤謙一君） 創政・公明クラブ代表、下川原光昭議員のご質問にお答えいたします。

最初に、久慈湊地区の震災復興についてお答えいたします。

当該地区は、東日本大震災により甚大な被害を受けた地区でありますことから、市の事業といたしましては、漁業集落防災機能強化事業を活用した集団移転事業を中心に、避難施設2棟、津波避難タワー1棟、避難路5路線、避難道路7路線及び防潮堤の整備など、20事業を進めてきたところであります。

その進捗状況であります。集団移転事業、避難施設2棟、避難路5路線及び避難道路2路線が完了しているところであり、そのほかの事業につきましても、おおむね今年度中の完成を目指しているところでありますが、一部来年度にずれ込む事業も見込まれており、できるだけ早期に事業完了が図られるよう努めてまいります。

また、県の事業といたしましては、久慈川及び夏井川の河川堤防かさ上げ事業が順次進められているところであり、久慈川河川堤防かさ上げ事業につきましては平成30年度、夏井川河川堤防かさ上げ事業につきましては平成29年度完了の見込みであると、河川管理者である県北広域振興局から伺っているところであります。

次に、津波避難タワーの進捗状況についてであります。これまで津波避難タワー建設予定地の地質調査及び実施設計業務を行ってきたところであります。

住民から要望のありましたスロープの設置や支障物件の移設等に係る補償費の増などによりまして、当初予定しておりました事業費が大幅増額となることから、現在、復興庁岩手復興局と協議中であり、協議終了後、工事の発注に取り組んでまいります。

次に、久慈市まち・ひと・しごと創生総合戦略についてお答えいたします。

総合戦略につきましては、10月30日に策定し、公表するとともに、国、県への送付を行ったところであります。

総合戦略の策定に対する国からの評価についてありますが、内容に対する評価は実施されないものでありますが、市といたしましては、各政策分野に定める平成31年度の基本目標の達成に向けて、毎年度の効果

検証をしっかりと行ってまいります。

なお、評価とはこととなりますが、地方版総合戦略に関する優良施策の実施を支援するために交付される地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金の先駆的事業分として、県内8市町村の前9事業のうちの一つとして、お試し住宅調査事業を含む、移住者視点の新生活支援事業が採択されたところであります。

次に、マイナンバー制度についてお答えいたします。

これまで、マイナンバー制度に対する周知につきましては、国で実施しているテレビコマーシャル、新聞広告などに加え、市の広報及びホームページへの掲載、リーフレットの全戸配布のほか、市内9カ所での説明会を開催し、制度への周知に努めてきたところであります。

今後におきましても、平成29年7月から予定されている自治体間の情報連携開始に向け、引き続き情報提供に努めてまいります。

次に、道の駅整備構想についてお答えいたします。

道の駅整備可能性調査の進捗状況につきましては、昨日の市民共同代表、畑中議員ほかにお答えいたしましたとおり、現在、既存道の駅等類似施設の現況調査や管内事業者への参入意向調査、官民連携の検討などを行っているところであります。

次に、大成橋丁字路への信号機設置についてであります。昨日の日本共産党久慈市議団代表、城内議員にお答えいたしましたとおり、現段階において、県内における他の要望箇所と比較し、優先度が高い状況ではないとの回答が、岩手県警察本部からあったと久慈警察署から伺っているところであります。

今後におきましても、当該地点への信号機設置の実現に向けて粘り強く取り組んでまいります。

次に、福祉行政についてお答えいたします。

まず、学童保育施設の利用状況と支援策についてであります。現在、学童保育所は7小学校区に8施設あり、その登録児童数は381名となっております。

登録児童数は年々増加している状況であり、子育て世代における共働き世帯の増加などによって、学童保育に対する利用ニーズは高まっているものと捉えております。

今後の施設整備や運営に対する支援策であります。施設整備につきましては、昨日の市民共同代表、畑中議員にお答えしましたとおり、定員超過により児童の



生活スペースが狭くなっている施設につきましては、今後、優先度などを勘案しながら、施設整備による改善を進めてまいります。

また、運営支援については、引き続き学童保育事業委託料や各種補助金等により、父母会等に対する支援に努めてまいります。

次に、地域医療体制の強化についてであります。県立久慈病院の産婦人科体制の充実につきましては、昨日の市民共同代表、畑中議員にお答えいたしましたとおり、久慈広域の町村とともに、10月には岩手医科大学に、また、11月には岩手県に対し要望活動を実施したところであります。

今後におきましても、関係機関と連携し、要望活動を行うとともに、当市にゆかりのある医師及び医大生の情報を活用し、市内医療機関への就労の働きかけ等を行ってまいります。

次に、ひきこもり対策についてであります。平成26年度の市内の保健活動を通じたひきこもりの相談件数は12件となっており、年代別では30代7件、50代5件となっております。

また、本年、民生児童委員によるひきこもり等の実態把握調査を実施したところ、委員136人中118人から回答があり、59人のひきこもり状態の報告がありました。年代別では、20代から40代が7割、50代から60代が2割となっております。

ひきこもりへの対応につきましては、相談後、対象者の状況に応じ、医療機関、関係機関等への紹介や継続的なサポートを実施しているところであり、今後におきましても、関係機関と連携を図りながら取り組んでまいります。

次に、子育て支援サービスの充実についてであります。当市の子育て支援の情報につきましては、子育て支援情報誌の作成・配布や、市ホームページでの子育て支援情報の提供などを行っているところであります。

今後におきましては、子育て世代の皆様の利便性の向上が図られるよう、ご提言のありました子育て支援サービスの専用アプリケーションの活用などを含めて、子供や子育て支援に関する情報提供方法や提供内容を検討・研究してまいります。

次に、木材の地産・地消についてお答えいたします。現在、地元産材の大半を他地域へ出荷している当市

にとりまして、地域内需要の創出により地産・地消を促進することは、林業経営の安定化と所得向上に大きく寄与するものと認識をいたしております。

このような観点に立って、民間事業者が侍浜で整備を進めている木質バイオマス熱供給施設への市独自の助成を行うとともに、公共施設である福祉の村温水プールへのチップボイラー整備を進めているところであります。

今後におきましても、駅前に整備する予定の複合施設等の公共建築物等における地元産材の活用にも努めるなど、関係機関・団体等と連携し、地域の木材需要の創出による地産・地消の推進に取り組んでまいります。

次に、第2期中心市街地活性化基本計画についてお答えをいたします。

本年5月から6月にかけて実施いたしましたワークショップ等における提出意見を踏まえ、社会資本整備総合交付金に係る都市再生整備計画を見直し、その変更についてのパブリックコメントを実施したほか、JR東日本や久慈警察署等、関係機関との事前協議に着手したところであり、また、12月1日には、久慈市中心市街地活性化協議会に見直し内容を説明したところであります。

今後は、パブリックコメントの意見などを参考に、当該計画を取りまとめ、年内に予定されている国の来年度予算に係る本要望を提出することとしております。

次に、観光振興についてお答えいたします。

まず、まちなか水族館の歴史・文化展示施設としての利用存続の考え方についてであります。現在のまちなか水族館は、観光施設としての役割のみならず、憩いの場として、多くの市民の皆様からもご利用をいただいているところであります。

一方、現在、震災で全壊した久慈地下水族科学館もぐららびあの再建関連工事を施工中であり、来年4月のオープンに向け、鋭意取り組んでいるところであります。

もぐららびあ完成後のまちなか水族館のあり方につきましては、本年度の委託事業費が4,000万円を超えておりますが、新年度においてはその財源見通しが立っていないことなど、現行どおりの運営は極めて困難であると考えておりますが、中心市街地のにぎわい創出の観点も含め、総合的に検討を進めてまいります。

次に、北海道新幹線開業に係る観光客誘致策につい

てであります。平成28年3月26日に、新青森から新函館北斗間の約149キロメートルが開業予定となっております。北海道を起点とした観光やビジネスなど、さまざまな分野での交流が図られ、地域経済の活性化が期待されておりますが、一方、当地域を含め、その恩恵に乗りおけないための取り組みが喫緊の課題であると認識しております。

当市といたしましては、本年9月のはこだてグルメサーカスを初め、岩手県観光客誘致説明会や三陸復興国立公園協会冬季誘客PRキャラバンにおいて、観光PRや旅行会社等に対し商談会を実施し、誘客活動に取り組んでいるところであります。

今後におきましては、新幹線最寄り駅である八戸市や二戸駅からの誘客を図るため、魅力ある観光ルートの情報発信や観光PR、旅行会社への商談会の実施、さらには久慈・八戸・二戸圏域で構成する三圏域連携懇談会などと連携し、観光客の誘致に努めてまいります。

次に、住宅用太陽光発電システムについてお答えいたします。

補助金の交付状況であります。平成27年度におきましては、11月末現在で14件の利用申請を承認しており、事業を開始した平成24年度からの累計件数は147件となっております。

なお、蓄電池設置に対する補助につきましては、市民から直接の要望は上がっておらず、また、岩手県内でも、盛岡市が市内全世帯を対象に、また、釜石市が被災家屋を対象に実施しているのみであり、両市とも申請件数は多くないものと伺っております。

こうした状況から、直ちに蓄電池を補助対象とする考えには至っておりませんが、今後、他市町村の事例も参考にしながら検討を進めてまいります。

次に、空き家対策についてお答えいたします。

空き家問題は全国的な問題の一つであり、当市における現状も、管理が適切に行われていない空き家が散見される状況にあると認識しております。

対策につきましては、昨日の市民共同代表、畑中議員にお答えいたしましたとおり、来年度、空き家等対策計画策定に係る空き家調査を実施し、空き家全般に関する基本的な方針を決定し、対応してまいります。

なお、現在は、来年度の空き家調査委託に向けた準備作業として、久慈警察署からの情報収集や行政連絡

区長との連携について協議を進めております。

最後に、大川目地区の汚水処理についてお答えいたします。

当該地区の汚水処理につきましては、現在、人口減少を考慮した経済比較を基本に、公共下水道、農業集落排水等の集合処理と合併浄化槽による個別処理を比較し、地域事情も勘案しながら、持続可能な汚水処理システム構築に向け、平成28年度末を目標に、汚水処理構想を見直しているところであります。

以上で、創政・公明クラブ代表、下川原光昭議員に対する私からの答弁を終わります。

空き家対策の答弁の中で、久慈警察署と申し上げましたが、久慈消防署と訂正をお願いいたします。失礼いたしました。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

〔教育長加藤春男君登壇〕

○教育長（加藤春男君） 創政・公明クラブ代表、下川原光昭議員の教育行政についてのご質問にお答えいたします。

最初に、学習定着度状況調査についてですが、ことし10月に行われた小学校5年及び中学校2年の児童生徒を対象に実施された岩手県学習定着度調査の結果から、当市の状況は、小学校は、国語、社会、理科はほぼ岩手県全体と同じ水準であると捉えております。また、中学校は、英語が岩手県全体より高い水準にあると捉えております。

一方、小学校の算数及び中学校数学は、岩手県全体より低くなっております。

これまでも、当市の課題である数学と英語の学力向上を目指して、各学校に対して、各種調査の分析と、分析に基づいた授業の工夫・改善を図るよう研修会等を通して働きかけてまいりましたが、年度によって結果が上下する状況が続いております。

教育委員会といたしましては、調査結果を真摯に受けとめ、今後も校長会等と相談しながら、指導方法の改善や研修会の運営、指導主事の訪問指導を継続して推進してまいります。

最後に、総合運動公園整備事業についてお答えいたします。

作業の進捗状況についてであります。昨日の政和会代表、黒沼議員ほかにお答えしましたとおり、南田地区を第一候補としたところであります。

以上で、創政・公明クラブ代表、下川原光昭議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 大沢選挙管理委員会委員長。  
〔選挙管理委員長大沢寿一君登壇〕

○選挙管理委員長（大沢寿一君） 創政・公明クラブ代表、下川原光昭議員の18歳選挙権の導入についてのご質問にお答えいたします。

さきの新政会代表、山田議員の質問にお答えいたしましたとおり、18歳への選挙権引き下げにより、久慈市におきましては約700人の方が新たな有権者となる見込みであります。

また、若年層の投票率向上に向けた取り組みについてであります。新有権者となる方々への選挙啓発が重要であると捉えており、防災行政無線や街頭啓発、フェイスブックを活用し、投票を呼びかけるほか、高等学校へ選挙啓発授業や模擬投票などの試みを行ってまいります。

以上で、創政・公明クラブ代表、下川原光昭議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 再質問、関連質問を許します。  
10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） きょう、きょうの質問等で、半分以上のことが重複になっておりますけれども、答弁をいただいて大変ありがとうございました。

1番になるわけですが、久慈市として、27年度の一番取り組んでいかなければならないということについて、その点についてちょっと確認をさせていただきます。

〔発言する者あり〕

○10番（下川原光昭君） 湊地区の震災復興についてありますが、本市としての27年度の重点要望というのはあるはずですので、それをちょっと確認させてください。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 湊地区の震災復興にかかわっての重点ということで、市長からもご答弁申し上げましたとおり、今、おおむねの事業等は20事業を進めてきたところでございまして、おおむねの基幹事業というのは終了してある部分もありますが、一部、来年度にずれ込む部分もありますので、これらにつきましては、できるだけ早期に事業完了できるように努力してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） そのことは、先ほど答弁をいただきましたので、よかったですけれども、震災津波からの復旧・復興が当市の一番の項目だと私は思って質問したんですけれども、再度、同じことだったんですけれども、いずれにしても、まだ4年9カ月たつんですけれども、湊地区の復興については、地域の方々の要望がまだ取り入れられないまま時間が過ぎてるなっていう感じはしております。

というのは、平成25年2月に、その前から4回のワークショップをして、各地域の取りまとめがあります。そこで、行政がしなければならぬこと、そして、行政と住民が一緒になって進める事業、それで、住民がみずからすすんでしなければならぬ地域の方々の協力っていうのが、直ちに、短期、そして中長期と取りまとめてありますのを確認しているかどうか、お尋ねします。

○議長（中平浩志君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） 4回開催したワークショップの状況を捉えているかということでございますが、手元に資料ございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 部長が今答弁してもらいました、手元にその資料あると。その中に、この被災になった学校前から大崎地区までの5地区なんですけれども、その一番急いでほしいという事業が、部長、ちゃんと書かれています、避難路を早期にしてほしいというのが、どの地区でもちゃんと出てるんですよ、取りまとめで、5地区の。

それで、6月にもこの地区の方々が、市長に要望をしてくれています。しかしながら、なかなか避難路の整備が進まないのはなぜなのかなって、地域の方々が非常に不安になっております。

なぜ不安になっているかというと、今、湊地区の道路、防潮堤が工事中であります。工事中ということは、堤防がない状況になってます。建設部長はおわかりでしょうけれども、そのとおりであります。そうすると、今、何年かに来る津波がいつなのか、私たち誰もわからない状況であります、その状況が湊地区の方々の不安な状況とは、わかりますよね。それで、津波が来

たときはどうすればいいかっていうのは、皆さんもご存じのとおり、早く遠くへ、高いところへっていうことであります。

そのことをわかって、なぜ湊地区の、今、防災センターとかいろんなことを整備をしてもらっていますが、いの一で避難の意識が高い湊地区の方々でありましたので、3月11日には死者が出なかったわけです。

ただしかし、いつもこの問題になるわけですけども、高齢化が進んで、1人が1人を助けるのが精いっぱいな状況になってくる。そのときに、やはり速やかに、遠くへ、高いところへ移動する手段として避難道路っていうのは、一番の解決だと思うんですが、その認識をお尋ねいたします。

○議長（中平浩志君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） 地区の要望の件だと思いますが、避難タワーの説明会、2回開催しております。その中でも、地域の方々からはいろんな要望が出されたということでございまして、あと、市長のところにも陳情に来ていただきました。市長からも、いずれどうにかしないといけないということで、検討をしろということで、検討を進めています。

その一つとして、指定避難所のトイレ、トイレが汚いといいますか、そういう状況だと使いづらい状況にあると。それから指定避難所、あの高台ですけれども、そこに避難する道路をつくってほしいというような要望でございました。

先ほど市長からも答弁したように、復興事業では、避難タワーをはじめいろんな事業を実施、終わったのもございますし、今、実施してる部分もありますけれども、地域の要望とすれば、指定避難所のトイレの改修、もしくは高台への避難する道路の整備というのをやってほしいという要望は承っております。

5年経過するけども、なぜできないのかというようなご質問でございました。それについては、トイレについては仮設をとりあえず置かせていただくような方向で、今、検討してございます。それから、避難道路については、防災公園から、将来、福祉の村への道路を通すというような計画もございますので、その道路からのアクセスができないのか。また、もしくは、地元の方からは、別ルートで上がるルートがあるので、現地を確認してほしいというようなこともございます

ので、それらを調査しながら検討させていただきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 今、部長から答弁いただきましたけども、地域の方々がみずから進んで市のほうに提言、提案しているっていうことは、進みぐあいは速いのではないかなと私は思います。その地域の方々は、下見をするために地域の自主防災の方々が草刈りをして、確認をしたっていう事実もあります。

そういうことから踏まえると、地域の方々が望んでいるのは避難道路だと。早く高いところに行くため。それが、地域の方々は、このルートはいいんじゃないかって出してもらってるのに、やっぱりそれを早く調査して進めるのが、私は、地域の方々の理解が得られやすいし、この4年後が、来年3月で5年になる。まだまだ進んでない状況については、地域の方々が協力していることに対しては、否定することなく粛々と速やかに、事業の成果につながるようよろしくお願いいたします。

あと、部長から避難施設のことがちょっと出ました。ありがとうございます。湊地区のこの地区に、避難施設っていうのはあるんですか。ちょっとそこを確認します。

○議長（中平浩志君） 勝田総務部長。

○総務部長（勝田恒男君） 湊地区に避難施設はあるのかっていうようなご質問でございました。

交付金事業で設置したのは2棟、避難所として設置したのはございます。それから、金刀比羅神社が指定避難所になってます。それから、長寿庵です。その四つがございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 今、お答えいただきました。去年11月に二つの施設が、久慈湊防災センター、大湊にあるふっこう館、これがそうだと私は思いましたが、津波のときは、そこは避難施設ではないんですよ。整備はしていただいておりますが、実際、さきに地震があったとき、閉まったままだっているものもありますし、今、避難タワーの説明会のところにもありますけども、そこは、説明では津波のときは避難できない場所と。残りは、長寿庵と金刀比羅神社になります。

金刀比羅神社は、階段が何段あるかわかってますか。百六十何段だったはずですが。そこに、お年寄りの方が行ける状況ではない。確かに遠回りをすると、軽トラックでは行けるけど、この冬の寒いとき、夜、冬が降るとき、当然です。

そして、長寿庵が、今、部長からお話がありました。長寿庵は、3月11日に当然使用しました。先ほどのように、トイレが使えない状況で、床も、あそこは20人ぐらい寝泊りをしたわけですけども、床もぼろぼろの状況という湊地区の避難路、道路、避難所というのは、これが完璧だと思っているか、いないか、ちょっとお尋ねいたします。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 先ほどから聞いておられます、何か市では全然、住民の要望を聞いてないというお話、承ったんですが、今現在、市長からもご答弁申し上げましたが、避難路5路線、避難道路7路線、それから防潮堤の整備、それから避難タワーの整備、これら20事業を進めてきたわけでごさいます、今、一生懸命これをまず完成させると。これについては、私どもは、地元ときちんと話をした上で、この計画ができ上がって、それでもって進んできているという理解をしているところでごさいます。

そうした中で、今、金刀比羅神社の問題とか、長寿庵の問題等を出されました。これらについては、一生懸命に今後、どうあればいいか、ことしの6月にも要望を受けております。それらを受けまして、今、消防防災課のほうにどのようなことができるのか、それについては一生懸命検討させておりますので、ご了解いただきたいと思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 副市長から、理解してほしいという答弁でありました。

いずれ、私、やってないとは言ってません。まだまだ急がなければならないと思われるのを、私はここで質問しておりますので、やってないというのを、やってるのを否定するために質問はしていませんので、ご理解をお願いいたします。

いずれにしても、いろいろやっぱりこの答弁でありましたが、久慈の津波被害の一番被害の大きかった湊地区であります。そのことについては、住民の命、生

命、財産、安全確保のために、この地域の方々の要望に対しては、できるだけ速やかに、そして、やってきたのも説明してほしいなど。手をつけてるのを説明してほしいなどと思っております。

というのは、要望を受けた、市としては一生懸命やって、今のこの20事業まで来たと。これからまだ進んでやらなきゃならないのがありますけど、今の状況はこうですっていうのをやってないと思うんです、私。そこら辺を、一番の被害に遭った地域の方々の不安を多少ともなくすためには、やっているのも説明してもらえればいいなと私は思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

あと、8番の中心市街地になります。

駅前再開発を計画して、そろそろ本要望に移るっていうことですけども、私も要望しましたけども、秋まつりの前夜祭をぜひ駅前で行ってほしいというのがありましたけども、それを受けて、私も実際にその場所に行っておりますが、やはり今の状況では狭い。みこしの方々が、その中に入り切れなかったという状況があるんです。

そういうことを踏まえますと、いずれ一番の問題は、やっぱり駅前ビルの私は解体だと思っております。それに向けて、いずれイベント広場としての広さを確保しながら、このまちのにぎわいを創出するべきだと私は思うんですが、考えについてお伺ひいたします。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 中心市街地にかかわりましての、駅前整備の関係で、駅前にある既存の建物があることによって狭いという、この事実についてはおっしゃるとおりでございます。

これを我々、今年度、事業をここまで進めてくるに当たりまして、二つの案をつくった中で、それを撤去して、その跡地に建物を整備する。あるいは今、本筋になっております駅の南側に複合施設を整備するという二つの案の中で、後者を選んで今進めているわけですが、お話のごさいました秋まつりの前夜祭のスペースとして非常に狭いということについては、今年度、今回開催してみても実感したところもありますが、逆に言いますと、ああいう狭い中で熱気が凝集してというふうなところで、非常に好評をいただいたということもございませぬ。

いずれ狭いという事実については、これはすぐには

解消できないわけなんです、やはりやり方といいですか、工夫しながら既存のものを生かしながらやっていくということが、まずは大事なと思っております。

その上で、さらに将来的なことをお話し上げますと、いずれ、今回のこの2期計画の中では、限られた財源の中でやり得ることをまずはやっていくと。将来的には、やはりどうあるべきかということについては、引き続き検討していくというふうなことでございまして、今回、この2期計画をもってまちなか整備なり、市街地活性化の仕事が成就するというふうには考えていないところでございますので、ご理解をお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 2期目があれば3期目もあるんだというような長い話になったんですけども、いずれにいたしましても、今の現状はいいわけではないですね。壁が崩れて、耐震のあれもなっていない。自然崩落もあるという施設は、やはりなかなか人がいっぱい集まる場所に、いつまでも放置しているっていうのは、私は、市としていろんな考え方で、あそこをいずれ広いイベント広場とするんだっていう思いがあるのであれば、そういう、早急に対応し、3期目の初期になるのかわかりませんが、安全のためにも撤去に向けての考え方を取りまとめてほしいなと思っております。

次に、9番の観光振興のまちなか水族館、そして、北海道新幹線開業について、同時に再質問しますけども、私は、まちなか水族館、提案したことがあります。全国の熱帯魚ファンの方に、水槽を貸しながら使用料金等を取る方法もあるんじゃないですかって尋ねておりました。研究・検討するっていう結果で終わっておりましたけども、その調査結果っていうんですか、全国のこの発信したのがどういうふうなことだったのか、ちょっとお聞きいたします。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） まず、先ほどの質問の中で、駅前の建物の取り扱いの話が出たんですが、これにつきましては、皆様ご存じのとおり、民間の所有ということでございまして、今回、検討した経緯はあるわけですが、結果とすれば、そこについては、今回、着手できないというふうなことでございますので、

維持管理とかそういった部分については、いずれ今の所有者の方の中でしっかりとやっていただかざるを得ないというふうに考えております。

その関係での振興局等からの指導等の部分につきましては、これまでもたびたびこの議場の中で議論されてきたところでございますので、管理のあり方についてはご承知いただいているものだというふうに思っております。

それからもう一点、まちなか水族館の関係で、以前に議員から海水ではなくて、熱帯魚で、しかも飼育の部分でさほど手がかからないというふうなこともあってのご提言があったわけなんです、これにつきましては、今、いずれ新年度に新たなもぐらんぴあがオープンするに当たって、まちなか水族館の機能を、かなり定着してる機能をどのようにしたら街なかに多少なりともそういったものを残しながら、新たなもぐらんぴあに移行できるかということについては検討しておりますが、以前にもありましたとおり、昨日、城内議員からもありましたとおり、やはりそこには相当の費用を要するというふうなことで、既存の状況のままではいずれ維持していけないというふうなことでございます。

ということで、まだ検討段階ということで、大変申しわけないんですが、いずれその熱帯魚という部分も含めての、そういった街なかにも水族館、サテライト機能があるというふうなものが実現できるかどうかという部分を、まだ検討段階ということでご理解いただければと思います。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 私は、熱帯魚ファンの方に、ただ無償で貸し出すっていう発想ではなくて、ちゃんと説明したつもりだったんですが、会派で数年前に境港に行ったときに、ゲゲゲの鬼太郎のモチーフが百何十体あると。それは、その行政でやったのではないわけです。行政でやったのは何十体かなんですが、それを全国に広報して、全国からの建設費、維持費を含めて、全国からそういうのでやると。それを、私は、久慈のまちなか水族館の中で、飼育料とか施設料とかっていうので、料金を取りながらやるのであれば、私はそんなに、4,000万の維持費でなくていけるのかなと思っておりますので、そこら辺もまた研究してほ

しいなと思います。

あと、北海道新幹線開業でありますけども、来年3月26日に開業すると。市長は認識してるし、そういうのに取り組んでいるという答弁であります。

八戸市長、八戸商工会議所の会頭とか観光協会の皆さんが、既に北海道まで出向いてそういう要請もしておりますし、二戸の市長、そして商工会の会長等とが、これについて、今までのお礼とこれからの対応っていうことで、北海道に出向いているのはご存じだと思っております。

北海道まで、函館まで行くっていうことになりまして、久慈市から一番近い二戸というところがあります。これは、主要な停車駅ではなかなかないんですが、我々は利便性がいいとこだと。そうすると、函館まで行くことによって、通過駅にならなければいいなと思っておりますけども、なることによって本数が減る。本数が減るっていうことは、我々も利便性が低くなるし、先ほどの一般質問の中でも言いましたけども、北海道からの教育旅行の生徒たちも、なかなか近場で選びづらくなってくるのかということ、予測をすればわかるのかなと思っておりますので、いずれPRも必要ですけども、函館まで行くことによって、二戸駅の停車本数がいずれ減らないような工夫も、私は必要でないのかなと。観光客誘客も必要でありますけども、新幹線停車の本数を減らさないような事業、取り組み等々も、私は考えられると思うんですけども、考えについてお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいまの北海道新幹線の開業に伴っての、八戸市、二戸市は、市長なり商工団体、直接行って、いろいろ誘客のための活動をされているというお話でございました。

そういった活動をされてるということについては承知しておりますし、市長から答弁申し上げましたように、この三圏域の連携の中で、同じようなスタンスの中でやっていくという当然の活動だなというふうに思っております。

それから、それに伴いまして、二戸市の停車本数が減になる懸念というお話でございましたが、当然、短時間で北海道までたどり着くと。東京北海道間を短時間で移動するという機能を果たすための新幹線ということからすれば、停車駅が少ないほうがいいというこ

とはあるかと思うんですが、そういった視点と、もう一方では、沿線にはいろいろな、やはり観光をはじめビジネスも含めての、必要としている地域があるわけです。そういったところで、やはり停車本数が減るということは、それは非常に大きい問題となるわけですので、そういったことがないように、しっかりと要望等は行っていく必要があるというふうに考えておりますし、ある意味、そのためには、地域の魅力なり、そういったビジネスの機会をつくり出していかなければならないと。そういう取り組みも必要なものだろうというふうに考えております。

それから、先ほどのまちなか水族館の関係で若干補足させていただきますが、既存のお借りしている物件につきましては、所有者のご都合によって、年度内までしかちょっとお借りできないというふうなこともありますので、そういったスペースの制約等もあつての、ちょっと今、あり方を検討しているということでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

それから、先ほど答弁の中で、昨日の城内議員に申し上げましたが、大変失礼いたしました。下川原議員の質問に対して答えた4,100万の話でございました。失礼いたしました。

○10番（下川原光昭君） 以上で質問を終わります。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 下川原議員の質問に関連して質問いたします。

質問は、第1点です。学童保育についてでございます。

先ほど、市長から8施設の中で381名の子供さんの利用状況ということで説明がありました。この8施設の中で381名というのは、定員の中で、定員割れをしているのか、また、定員数に達しているのかということをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） この381人ということでございますが、これは、12月1日現在の利用者数でございます。

利用定員の総数は384でございます、現在、入所児童数が381ということでございます。

定員をオーバーしている施設は、3施設でございます。一つ目が、第二みつばちでございます、定員70名に対して73名の入所状況。小久慈学童でございますが、

45人の定員に対して62名の入所。三つ目が、長内学童でございまして、45人の定数に対して58名の入所という状況になっております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 実は、9月の定例会議の中でも、学童保育の件に関しては質問をさせていただきました。そのときに、市長の答弁の中で、子育て世代の雇用の維持と生活を守る観点からも極めて重要であると認識をしているという答弁がございました。

そしてまた、実は、長内学童保育のほうからなんです、市議会だより、あるいは市長交渉のとき、そしてまた、研修をした結果を箇条書きでちょっといただいてきたもんですから、読ませてまいります。

議会だよりに記載されたことにより、保育者、父母会はもちろんのこと、広く地域の方に声をかけていただき、学童自体が施設として承知・理解をされたことに、心から深く感謝を申し上げます。施設の過密状況を議員さんより身近に聞いていただき、そして、10月16日、市長交渉の場において、たくさんの議員さんからご出席をいただき、力強いご支援のもと、市長さんに訴えることができました。一番の変化は、保護者の、いわゆる父母会の皆さんが、議会で取り上げてくださったことに感銘をし、諦めかけていたと、このままではいけないという機運に目ざめたことですよということを言っておりました。

そして、子供たちも、これは、広報だと思いますが、子供たちも活字となり、写真が載ったことで、自分たちの声、親の声が届いたことに実感、手応えはひとしおでしたということです。具体的に、子供たちは想像、イメージしました。もう一つ学校の余裕教室があれば、勉強の部屋、遊ぶ部屋を設けることができる。見守り側の指導員も、少なくとも過密状態は軽減できる。放課後の子供たちの居場所の空間は広がり、居心地がよくなると。実現になるものだという前提のもとで、子供たちと保護者の方と一緒に語り合い、夢を膨らませていますということでございます。

今、親、子供たちの問題は、新年度、在籍できるが、一番の痛切な関心事は、4年、5年生になったら、退所の環境づくりが長い間続いているということの心配でございます。新年度の新1年生の入所希望者は、現在、15名ぐらいの情報です。逆に言うと、15名が退所

しないと、本年度並みの過密とは言えない、保育のキープはできないということになります。新制度では、6年生まで入所可能ということであつたわけですが、現実には伴っておりません。

そしてまた、これは、広報と、そして市長交渉の中身だと思っております。

あと、研修なんだそうですが、厚生労働省の担当者を招いての研修会が、宮城県の仙台で、11月17日に行われたそうです。その研修の中身については、学校施設を活用した放課後児童クラブ及び放課後子供教育の実施促進というふうなことで、学校施設の活用にあたっては、責任体制の明確化、実施主体は学校ではなく市町村の教育委員会、福祉部局等となり、これから設置をもって管理運営に当たっていかねばならない。事故が起きた場合には、対応等の取り決め等について、あらかじめ教育委員会と福祉部局等の協議を締結するなどの工夫が必要というようなことで、厚生労働省のほうも、学童に関しましては非常に積極的なアドバイスをしてくれたというふうなことで、大変喜んでおりました。

そして、何よりも安心して子供さんを預けてもらえる学童というもの、そういう中で、父母の会が大変一生懸命、そして指導員も一生懸命に子供たちに教育をする。そういう環境を整えてやりたいというそういう思いは、私も10月16日、市長さんとの交渉の中で参加をさせてもらった一人ですけれども、涙を浮かべながら訴えてる姿が大変印象的でした。

やはり久慈市にとりまして、子育ての問題、もちろん雇用の問題、いろいろな問題がある中で、何が一番重視していかねばならないか。やはり子育ての問題、これは大きな社会問題になってるわけでありまして、この問題をぜひとも取り計らいをしていただきながら、一步でも半歩でも前に進むような対応をしていただきたい。

やはりそこに勤めてる方々、もちろんお子さんもそのとおりですが、安心をして久慈市で学問を習い、そして、大人になったときに、働いたときに、久慈市が誇れるような、そういうような、魅力あるような久慈市になるような、そういう意味では大変、学童というのは避けて通れない大きな課題の一つだと思っております。

どうぞ市長さん、その意味も含めて、今、学校の施



設の中で空きがないというふうなことも言われてるんですが、何とかそういう空き教室をつくっていただきながら、ぜひとも対応していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） ただいまお話がありました学童保育、長内小学校につきましては、10月も直接お母さん方からも、指導員の先生方からもお話をお聞きしました。狭い中で、子供たちが暮らしてる。新しい子が入るためには、上級生が抜けていかなければいけないというお話もありました。

ご指摘ありましたように、子供対策としての学童保育事業は、充実をしなければいけないというふうに思っております。

これまで、やはり財源の問題等がございましたんですが、私も直接、長内小学校校長先生ともお話をお聞きしましたが、やっぱり空き教室はこれ以上はないというお話ありましたので、今、担当部、担当課のほうに、それ以外の方法を含めて学校と相談しようということで、長内小学校校長先生も、その場所探しとか、適地探し等についても協力するという話がありました。

小久慈小学校も非常に手狭だという問題もありまして、ただ財源がないからということで先送りはできないというふうに思っておりますので、これについては順次という形で、ちょっと1回に全部というわけにはいかない状況はご理解いただきたいんですが、優先度高いところから、来年度、やはり手をかけていかないといけないなというふうに思っております。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 大変ありがたい話を聞かせていただきました。来年度と言いながらも、ぜひ、各担当の方々も学童のほうに足を運びながら、指導員の方々、あるいは父母の会の方々とも交流を深めながら、理解をしていただくというのも重要なことではないだろうかと思っております。

ちなみに、私は3回ほど学童の現状を見させてもらいました。本当に、おやつを食べてる子、そしてまた、勉強をしている子、あるいはやんちゃに遊んでる子っていうふうな形で、過密な状態の中で、よもや危険も伴うなというふうな感じも受けてるのが実情であります。

この問題は、早急に解決をしてくれるという、新年

度になったら解決をしていくんだというふうな話もさることながら、担当の皆さんも足を運びながら理解をしていただくことが重要であろうというふうに思いますので、どうぞよろしく願います。どうもありがとうございました。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 下川原議員の質問に関連して質問させていただきます。

今の二子議員の学童保育についてでございます。

いずれ市長のほうからは、この施設の整備については優先度を勘案しながら、順次整備をしていきたいということのようでございます。

いずれ、たまたま長内学童、今の学校の施設の利用をしていくときに、保護者の会、父母会のほうから声をかけていただきまして、何回かそちらにもお邪魔をして、いわゆる少子化による余裕教室を使いたいということで、侍浜学童の事例等もお話をしながら、若干かかわっていたので、私も長内学童については、ちょっと大変だなという思いがしています。

というのは、先ほど市長も触れておられましたが、いずれ新しい子供が入ってくることによって、今いる子供が退所しなければならない。これは、やっぱり異常な状況だと思います。いわゆる子育て支援なりをうたっておりながら、そういう実態があるということは、ちょっと考えられないことだなと。そういうふうに思ってますので、いずれこれは優先度、非常に高いと思いますので、早急に施設整備、来年度からでもということで、市長のほうからもお話があったんですが、取り組むべきと思いますが、再度、決意のほどをお願いします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 先ほど申し上げましたとおり、これについては時間をかけて検討ということではなく、具体的に、早急に対応しなければいけないと思っております。当面は、長内小学校と小久慈小学校の学童、この2カ所、第二みつばちもありましたんですけども、ちょっとあちらがまだ新しく建ったばかりという状況とか、あと人数の、入所状況もありますので、まずは長内小と小久慈小と、この二つを、どちらをどう優先するかというところを、これについてはできるだけ早い時期に対応してまいりたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 今、市長から長内、小久慈、これはいわゆる緊急度、優先度が高いということでお話をいただきました。いずれ、長内、小久慈、どちらが先ということでなく、できたらやはり並行して進めていただく、それぐらいの思いで頑張っていたきたいと思っておりますので、このことはよろしくお願ひしたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 本当に一緒に、もう本当に今からでも手をかけたいとは思っているんですが、再三お話し申し上げるように、久慈市の財政の問題がございますし、議員の皆様からも道路整備含めて、さまざまなやっぱりご要望もございますので、そこについてはやはり全体の財政状況も考慮せざるを得ないというところだけは、ぜひご理解いただきたいと思っております。

何とかなるのであれば、やっぱり子育て対策は最優先でやっていかないと、やっぱり近々の問題だというふうには思っておりますので、緊急課題だというふうに思っております。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） あと、運営費に対する委託料と申しますか、これなんですけど、20人を超えた部分、それから、20人以内と申しますか、以下の部分で大変額に違いがございまして、運営主体である父母会と申しましても、大変苦慮をしていると。いわゆる父兄の方々の負担がふえるということで、大変な状況にございます。

そういうことで、少なくとも、やっぱり施設、学童保育の制度については必要ということで、設置をして事業運営しているわけでございますので、その辺についてもご配慮をいただきたいと思うんですが、考え方をお尋ねをします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） この運営費につきましてですが、宇部の学童につきましては、昨年7月の開所以来、父母会で一部家賃の負担をいただいております。半分は負担していただいているんですが、これについては補正予算にものせておりますけれども、久慈市のほうで全額を負担をしますと。ほかの施設との均衡もございまして。

あとは、この運営費、国の補助が、補助制度がそういうふうには、利用児童の人数に応じてその仕組みが違

うと、格差をつけておるのですが、国がそうだとはいえ、その改善は引き続き求めてまいります。久慈市としてもできるだけのことろ対応できるように、これについては検討させていただきたいというふうに思っています。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 施設整備とあわせて、運営費に対しても善処方、よろしくお願ひをしたいと思っております。

あと、医療体制の強化のところですが。

県立久慈病院で産婦人科医が不足している。個人の方の病院が分娩を取りやめるといことで、今、大変な状況ということで、昨日来いろいろ話題になってございます。

あるときに、久慈出身のお医者さんの方とこのことで話をしたことがございます。そしたら、地元医師、久慈市ですと、久慈市出身の医師の養成が大事だと。そうして、やっぱり地元勤務していただく、これが一番の近道じゃないかという話をされました。

私もそうかなと思って聞いていたんですが、やっぱり地元の医師があれば、やっぱりお願ひをすれば、地元に来て勤務をしていただける状況もできるのかなと、そういうふうには思っております。

そのことを踏まえまして、他の医療機関等に勤務をしている方で、久慈市出身の方で、産婦人科の医師の方がおられるかどうか、ちょっとお尋ねをしたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 現在、久慈市出身、あるいは久慈市にゆかりのある方の、久慈市以外で開業している方、あるいは病院に勤めている方、そして学生さん等をデータベース化しております。その中で、26名ほど、今現在いらっしゃいますが、産婦人科、学生さんも含めて、学生さんといいますが、医局にいらっしゃる方を含めて、産科、産婦人科の方は2名いらっしゃるというふうには捉えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 26名の医師の方がいて、いわゆる産科、産婦人科の方は2名ということのようでございますが、いずれ、その方等には何かのコンタクトをとると申しますか、お話をしている状況なんでしょ

うか。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） この2人が、竹下産婦人科の息子さんご夫婦というふうに、竹下先生からお聞きしておりますが、お二人とも岩手医科大学の医局に籍を置いてるということでした。

竹下先生のお話ですと、まだもう少し修行が必要だというふうな話でありまして、私からは、ぜひ、できるだけ早い時期に、久慈市にお二人戻っていただきたいという願いはしたんですが、こればかりはこちらの希望通りにいくかどうか。ご本人の将来の選択もあります。強くお願いをしてみました。

岩手医大の産婦人科の教授にお会いした際には、県北の産婦人科医師不足、しかも、開業医さんが出産を取り扱わないということになると、本当に医大としても大問題だというふうに思っているということで、来年度に向けて人的補強を含めてしっかりと考えていきますというお言葉をいただいております。

なかなか産婦人科に限らず、医師確保、非常に難しいのですが、地元の医師確保、医師養成含めてですが、これについては、ただできないで済むわけではないので、いろんなルートを使いながら、チャンネルを使いながら、接触をし、お願いをし、そういう努力を続けていかなければいけないというふうに思っています。チャンネルは全て開いてると思っておりますので、久慈出身、あるいは岩手医大にかかわらず、全国にも門戸を開いてお呼びをしなければいけない。そういうふうに、非常に危機感を持って取り組んでおりますので、議員の先生方も情報がありましたら、ぜひともお教えいただきたいというふうに思います。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） いわゆる県立病院ということで、県の施設なわけですが、地元にとってもこのことは大変に大きなことですので、いずれ連携をとりながら、県との、早急に今の状況が解消されるような取り組みをしていただきたいと思います。

あと、総合運動公園整備についてでございます。

昨日来、これもいろいろ議論がされてございますが、総合評価という部分で南田地区が最適という結論に達したということのようでございます。

前にも、野球場単体で調査をした。その場合でも、やっぱり南田地区、評価が高かったことからすれば、

そのことについては別に異論を唱えるつもりもございません。

その中で、私、心配してる部分は、久慈市で今、やませ土風館とか、市民体育館もそうなんです。駐車場の問題がございます。いずれ、できてから、市民体育館も大きな大会等があれば、民地を使うとか、河川敷を使うとか、そういう状況で、駐車場はふんだんにある、そういう状況ではないわけでございますし、やませ土風館もそうです。できてからは、今はもう駐車場が狭いと、大変な状況だということなんです。できてからではなかなか広げるということもできないのではないかなと思います。

いずれ南田地区の評価が高かったという部分には、大部分が林地、山林なので、いわゆる地価の問題も若干安く、用地も買えるというのがあったようでございますので、どれぐらいの規模で駐車場も想定をしているのかは、ちょっと今度の事務事業説明会であるのかなとは思いますが、そういう用地の部分で、多少なりとも他の地域より安く求めることができるのであれば、十分過ぎるぐらいとは言いませんが、十分な面積を確保すべきと思っております。考え方をお尋ねをします。

○議長（中平浩志君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 総合運動公園整備にかかわって、駐車場のスペースの確保ということでございます。

議員おっしゃるとおり、これまでの議会に対する事務事業説明の中では、台数をこれぐらいの面積であるということでご説明してきたんですが、市民のワークショップとか、そういったアンケート調査等でも、駐車場については広くってはほしいというご意見が、やはり多くいただいております。

その中で、今回、最終的にこの描きをしたわけなんです。その中で、駐車場については当初の倍の面積、面積的には、想定では大体1.5ヘクタールぐらいを想定したいなというふうなことで描きをしておりまして、普通車で500から600台ぐらいというふうな形で、今、構想の中では位置づけているということでございます。

今後、構想段階の次のステップでは、実施にかかわって、具体的な設計をしていくわけですが、その中でもいろいろ、その辺については考慮しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） そのように市民の要望も多かったということですので、十分なスペースをとれるように努力をしていただきたいと思います。

あと、ちょっときのうから聞いて、総合運動公園整備について気になった部分があるんですが、事務的な手続等をしていく中で、話を聞いてますと、例えば5年とか、構想から実際の完成までっていえば、それぐらいはかかるのかなというふうな話で、きのうから聞いておりました。

そういうことで、また、あわせて心配な部分は、いわゆる野球場がメインということのようですが、芝、球場の中の、それが人工芝なのか、天然芝なのかは、まだ恐らくそこまで行ってるかどうかもちよっとわからないんですが、天然芝だと、養生をするのに3年ぐらいかかると言われております。いずれ野球場そのものが完成をして、外野なりに芝を張ったと。それから養生をするのに3年ぐらいということですので、久慈に野球場がない期間が大分、もしかすれば二桁近い年月といたしますか、そういう状況になるのかなというふうなことも心配されるんですが、野球場ができる前に芝を張るというのも、これもどうなのかなと思いますし、その辺について、私の心配、取り越し苦労かもしれませんが、天然芝なのか、人工芝等で考えてののかについてお尋ねをしたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 野球場にかかわっての、球場内の芝のことですけれども、今、想定では、外野の芝生というような形で天然芝、芝生ということで想定をしております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） そうすれば、養生に結構かかる。よく言われているのが、3年とかという話がありますので、非常に野球場のない期間が長くなるということで大変だと思うんで、いずれ事務手続等も早期に進めまして、1年でも早く完成されますようにご努力をいただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） 下川原さんの質問に対して、

関連の質問をさせていただきます。

まず初めに、項目4番の道の駅構想についてでありますけれども、昨日から、畑中議員のほうからいろいろ質問がありましたけれども、今、久慈八戸自動車道、階上のほうまででき上がっておりますけれども、実質的には下田ずっと先まで、みちのく有料道路を通って来れるわけですが、その中で、ほとんどがトイレ休憩をする場所がないということで、普段、普段っていいですか、高速道路は大体50キロ圏内にサービスエリアを1カ所っていうふうに設けられて、その後にはパーキングエリアを15キロぐらいってのが通常なわけですが、そうすると、八戸からちょうど50キロ圏内にある久慈市が、設置場所としては多分適当じゃないのかなっていうふうに思います。

以前にも、前の議会でも、市長は広域市町村の中で引っ張りたくないというふうなお話もしていました。

その中で、きのうから、畑中さんも言ったように、この地域が有力であるということは確かだと思いますので、そういった意味でぜひとも洋野町から野田にかけて、この地域が最優先ということで、その中で進めたいなというふうに思いますが、その辺についてお考えがあればお願いいたします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） ただいま議員からお話いただいたとおりだというふうに思っております。50キロという距離の問題もありますが、移動時間もあるかと思っております。

八戸にはさまざまなお店もございます。トイレ休憩もできる施設もあるかと思うんですが、八戸で万一食事をとるというふうなことになりますと、こちらのほうにはトイレ休憩だけということだと、経済効果は本当に、ほとんどない状況になってしまいますので、食事はこちらのほうがということで選んでいただくと、あるいは地元のを、産直、海、山ありますので、こういったものについても、久慈の道の駅がほかよりもいいなと選んでいただけるような、そのためにもやっぱり品ぞろえ、規模が必要だと思っておりますので、そういう観点から、これについては、ぜひともつくり上げ、そして、地域の経済、雇用、所得向上、観光振興、何にしても非常に大きな効果が出るものというふうに考えております。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） ありがとうございます。ぜひとも、久慈市がリーダーシップをとりながら進めていただきたいというふうに思います。

それから、質問項目の6番のひきこもり対策についてでありますけれども、先ほど、答弁で59人がひきこもりというふうな話がありました。

今、現状ですと、高齢者、年金をもらっている方が、息子さんがひきこもりで、年金で子供さんが生活をしているという状況がかなり多くなって、最近はひきこもりの高齢化というのが問題になってるわけですが、実はその中でもカウントされない方々も、多分あるんじゃないかなど。社会に就職して出るんですが、1カ月、2カ月でやっぱり、どうしても人とかかわりの中で引きこもってしまう。また少しよくなって、また行くんだけど、実質的にまた1カ月、2カ月でやっぱり、どうしても勤めれない。そういった方々が、非常に多くなっているのも現実じゃないのかなというふうに思います。

そういう意味で、具体的にどういった方法で、そういったひきこもりの人数の具体的な施策が、今、聞いていますと、福祉の中でやっていくということですが、具体的な施策をどのように考えているのか、あればお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） ひきこもりの数の把握ということでしょうか、それとも――

〔「支援策」と呼ぶ者あり〕

○生活福祉部長（和野一彦君） 支援策でございますが、昨日、ご答弁申し上げましたが、現在、中央公民館におきまして、これは、岩手県の委託事業で無料化のNPO法人が実施してる事業でございますが、若者ステップアップの日というふうな事業でございます、これは、年間23回実施しておりますが、いわゆるひきこもり、ニートと言われる方を社会生活になじんでもらうと。それから、コミュニケーションのとり方、あるいは農業体験とか、そういうふうな活動を通じてひきこもりを解消していただくという事業でございますが、これに対して4名ほどの参加、今年度ございました。こういうふうな事業。

あるいは今年度も、来年2月でございますが、民生児童委員を対象として、「ひきこもりの理解と地域における支援について」というふうな題で講演も予定し

ておりますし、こういうふうな活動を通じながらひきこもりへの理解、それから、支援というふうなことについて、民生委員を中心に地域のみんまで支え合っていこうというふうな機運を醸成していきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） ただいまの関係でございますが、調査結果でも59人はいらっしゃるというふうな話でございます。

私、県庁時代に、この担当課長をしていたことがございまして、そのときには国の事業を受けまして、盛岡市にその事務所が開設、盛岡市で開設をしておったんで、かかわってきたんですが、やはり非常に難しい問題だというふうに感じてまいりました。

昨今は、不登校の子供たちもふえていると。大人になってのひきこもり、ニートの前兆、その前段階として小学校、中学校に行けない子供たちもいる。要するに、対人関係でうまくやれない子供たちが、どうしても行き場がなくて家庭にひきこもってしまうと。これが長期間にわたると、事態はかなり、さらに厳しくなるというふうなございまして、しかも一人ひとりの状況が違うということでありまして、現在は盛岡市と一関市がその対策の事務所を開設してやっていると、日常的に対応してるというふうには聞いておりますが、本当にできれば、そういうふうな、本当にマンツーマンで息長く、丁寧に、まず仕事につく前に、家から出てくると、そこからやらなければいけないケースが非常に多いというふうに考えておりますので。

今、久慈市では、先ほど部長が申し上げましたとおりの対応はしているんですが、それで事態が改善するというふうなことにならないのではと。全国ではひきこもり、60万人とも100万人とも言われておりますが、それにこれが長期、年齢が上がり、しかも人数がふえてという、家族にとっては大きな負担になるという問題意識は持っておりますが、この対応については、こちらの保健師等の対応も含めてですが、かなり難しい問題、ケースが多いだろうなというふうには思っております。

これは、非常に悩ましい問題ですが、放置できないというふうには思っております。これは、本当に国レベルでも悩んでおりまして、県も市町村も、どこも大

きな問題となっておりますので、これについてはさらに、こちら、市としても勉強をし、対応策をどうとれるかという、そういう検討を行ってまいりたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） ありがとうございます。

これは、次の子育て支援サービスにもつながるわけですが、いずれに、私もテレビで拝見して、ひきこもりの方々が、同じ状況の方々が寄り合って情報交換する。今、結構若い方でもスマートフォン等をやっていますので、そういった情報を共有できるように、お互いがやっぱりそういった悩みを打ち明けあって改善されていくっていう事例もあったようですので、これは、次の子育て支援サービスにもつながるわけですが、やはり子育ての中で各家族間の中で、どうしても子育てに大変不安を持ってる若いお母さん方がいるっていうのも事実であります。

その中で、同じような境遇で、今スマートフォンが普及していますので、そういった情報を、しっかりと情報を伝えることも大事じゃないのかなと思いますので、ぜひそのことについては研究してやっていただきたいと思いますが、その件についてもお聞かせ願います。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 子育て支援サービスということで、スマートフォンの専用アプリの利用ということでございますが、これにつきましては、世田谷区とか、あるいは墨田区などで、そういうふうなアプリを活用しているようでございます。

これらにつきましては、本市といたしましても、研究をしながら使えるものは使ってというふうな形で対応してまいりたいというふうに考えております。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） ありがとうございます。

次に、8番の第2期中心市街地活性化基本計画について質問させていただきます。

実は、私も会派で、岐阜県の新しくできた図書館、みんなの森ってあるんですが、ちょっとそこを視察させていただきました。

その中で、やはりちょっと特徴的だったのが、計画的にはかなり前からしたようなんですが、設計者は地元の方を使ったということで、有名な建築家だそう

ですが、やはりその段階から市民とかかわって、一緒にものをつくっていかう。

今回、複合施設の中に図書館ということですが、やはり設計が上がった時点で、これをこういうふうにしていかうというのは、なかなか厳しいところがあるんですが、やはり設計段階からみんながかかわって、いいものをつくっていかう、市民が集まりやすい場所を提供していかうということであれば、今後、設計をプロポーザルにするかどうか、その辺はちょっとわかりませんが、やはりそういった時点から、先ほど上山さんから質問があったように、もう基本的には3階あるしっていうふうな形で構想があるようですが、その辺の設計段階から、もし市民がかかわるのであれば、そういった方法も必要ではないかと思いますが、その辺について伺いたいと思います。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） ただいま、他市の、他地域の事例ということで、ご紹介があったわけですが、基本的な考え方は我々も同じように、いずれできるだけ市民の皆様のご意見をいただきながら、それを反映できるようにというふうに考えております。

あとは、スケジュールの関係で、29年度までに設計を上げるという考え方でございますので、いずれ年明けぐらいにはワークショップをまずは開いて、そういったことを繰り返しながら、いろいろな意見を取り入れていきたいと、そういった思いでございます。

あとは、変更できる、変更といたしますのは、現在、国に対して面積等のところを一定のところ申請しておりますので、大きな変更はできないと思うんですが、そういった機能の配分でありますとか、特に、もうそのレイアウト的な部分については、これから詰めていくこととなりますので、おっしゃるような趣旨でつくり上げてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） 図書館機能をした複合施設ですので、ぜひ教育委員会と市長部局が連携とって、本当に市民が集まって憩いやすいような、そういった施設をつくり上げてほしいというふうに思います。

次に、12番の大川目地区の汚水処理についてでありますけれども、これについては以前、大川目ほ場整備するときに、農業集落排水を念頭に、土地のほうも市

のほうで考えてもいいような話があったんですが、なかなか地元の許諾っていいですか、とれなくて、断念したことがあるわけです。

今、先ほど答弁ですと、公共下水道汚水計画が来年度にでき上がるということで、私どもの地域に住んでいる方にすれば、以前からだ、もう実質的には工事に入っている時期なんです、そういつて、まだ公共下水道が川貫地区までしか来てないわけです。

その中で、公共下水道のない大川目地区が多分、今回から除外されて、排除、入れなくて、合併浄化槽を使ってくださいというふうな、結構、合併浄化槽の中には処理に入っていますよね。その中で、実質的には、本当に農業集落なのか合併処理なのか、地域の方はつくりたいけど、どっちが優先してやったのかねと、なかなか悩んでいる。実際は、今、先ほど答弁があったように、28年度を過ぎないとしっかりした結果が出ないという部分があるわけです。

農業集落にすると、やはり地域の住民負担も出てきますし、そういった部分からすると、早期に住民に説明できるような状況が、できた時点では、もう来年度中に、できれば29年度にその結果を、見直した部分を説明するのかなと思うんですが、その辺についてはどうなんですか。

○議長（中平浩志君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） 大川目地区の汚水処理でございますけれども、これは以前、私のほうも1回設計したことがございますけれども、人口減少、これを考えますと経済比較していきますと、多分、議員おっしゃるように、集落排水が町の中の部分、家が連帯している部分はそういった形になるのではないかと思います。また、ちょっと離れたところは合併浄化槽にほとんどなると思います。

以上です。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） 合併浄化槽になりますと、なかなか排水を持っていく場所がないという方も、次には、ほとんどが改良区の水道に流すような形になるんですが、やはりそういった部分も、逆に言えば、今度必要になってくるのではないかと思います、その辺についてはどうですか。

○議長（中平浩志君） 中森建設部長。

○建設部長（中森誠君） 農業用の配水路であれば、

これは土地改良区等との話し合いになると思いますけれども、まず、指導等でも、今は流していいというふうな形になっておりますので、今後は改良区等との話し合いになると思います。

以上です。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） 総合運動公園構想について、先ほど、きのうから南田地区に第一候補として決定したわけですが、私も、予算的に大差がないのであれば、将来的な形として、本当に市民がいつでも集えるような場所、大川目なんかも歴史とか、いろんなそういった部分があるわけですので、そういう部分であったのが、17億もうちょっとなると、なかなか場所の設定というのは厳しいのかなとも思いますが平沢の運動公園の構想もあったわけですが、やはりつくってよかったなというものをぜひつくってほしいなと思いますので、今後は、やっぱりいろんな機運を打ちながら、じっくりと時間かけて、しっかりとしたものをつくっていただきたいと思いますが、その辺についてお願いいたします。

○議長（中平浩志君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 3地区に絞り込んで、その3地区にはそれぞれいい点、それから、ちょっとデメリットになる点といろいろあるわけでございまして、非常に選定に係っては、そういったところがありますので、それぞれの項目に沿って客観的に判断するために、いろいろこれまで作業させてきていただいたと。

その中で、南田地区が評価点の中で一番すぐれていた点数になったということでございます。

今後は、議員おっしゃるとおり、つくってよかったというような形になるように努めてまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） 下川原議員の質問に関連させていただきます、二、三お伺いしたいと思います。

まず、7番の木材の地産地消についてでありますけれども、市長から非常に前向きな答弁、地域材は地域で使って、地域の経済を潤沢に回していくというお話を伺いまして、非常に喜んでおりましたし、よろしくその点、お願ひしたいと思います。

久慈小学校が完成されて、この間私、見せていただ

きましたけども、その中で、外側は確かにRCですけども、中にふんだんに木材が使われているということで、非常に子供たちの情操教育と申しますか、非常にゆとりのあるというか、優しい子供たちがここで教育、成長するだろうなと思って、非常に感激して見てまいりました。大変立派なものをつくっていただいたようであります。

それから、10番の住宅用の太陽光発電システムでありますけども、これは、もう数年前から蓄電池が非常におそまつであって、これがないために電気のロスが非常にあるという話を当時からずっとしてましたが、最近とみに蓄電池が、非常に日進月歩でいいものになってきてると。どういった状態にあるのか、その辺をちょっと教えていただきたいと思いますが、お願いします。

○議長（中平浩志君） 奈良港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（奈良透君） 当市の状況ですけども、先ほど市長がご答弁させていただいたとおりですけども、住宅用太陽光発電につきましては、平成24年度から今年度まで実施してきているところですけども、累計件数としては147件設置しております。

ただ、今までの過去の実績を見ますと、蓄電池については、そのうちの1件という形になっておりまして、当市においてはまだまだちょっと普及してないのかなという状況であります。

以上です。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） 蓄電池の普及状況でなく、技術的に非常に蓄電池が性能がよくなったということを知ったつもりでございましたが、そのことを一つ、わかっている範囲で結構ですが、お聞きしたいと思います。

それから、行ったり来たりして恐縮ですが、4番の道の駅整備構想であります。これは、ちょっとこれも初歩的なことで恐縮ですが、教えていただきたいんですが、これは、今の東北高速道路のような形でサービスエリアとか、パーキングエリアっていうのができるのか。それとも、一旦この道路から下りて、そして、新たなところでそういう機能を果たすのか。その辺、ちょっとこの構想教えていただきたいんですが、具体的なところ。

○議長（中平浩志君） 奈良港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（奈良透君） 先ほどは大変失礼しました。

議員おっしゃられるとおり、確かに今までから見ると技術革新が進んでまして、価格も下がっておりますし、耐用年数もどんどん延びてきている状況になります。今後の状況といたしましては、どんどん普及していくものと考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 有料道路のいわゆる道の駅的な部分につきましては、一般的にいえば本線直轄型、上下道路にそれぞれつくパターンと、それから近傍型、先ほど議員がお話したように、本線から一旦離れて、そして近傍に建設する。そのような二つのが、一般的に考えられます。

本線直轄型になりますと、現時点ですと、もう設計等もある程度進んでる部分でありますので、国に要望するにしても、結構ハードルが高いのかなと。現在、近傍型、直結型も含めて、広域の勉強会で検討しているところでございますが、近傍型が、やはりこれからの考えていく現実的な道の駅ではないかなと考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） 再度お伺いします、わかんないもんですから。

それは一旦、高速道路からおりて、そこで道の駅っていうか、そういうサービスエリアみたいなところに寄って、トイレをしたり、そして食事したり、お土産買ったりするってことですか。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 近傍型ですと、そのような形になります。議員お話しのとおり、インターチェンジからおりて、そこで買い物するというようなイメージになります。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） ありがとうございます。当初からこれは、高速道路ができることから、これ、何とかそういう形でサービスエリアか、何というんですか、食事もできたりあれするような、ガソリンも入れ



たりできることをやらなければ、ここは残るぞって  
いう考え方が皆さんにあったわけですね。そして、  
それをやるためにはっていうことで、いろいろお聞き  
してみたら、国交省、三国のほうからお聞きしてみたら、  
一切そういうものは、道路だけであって、一切そ  
ういうものはだめですよ。やるのであれば、皆さんの  
自費でそこにくっつければできるのかもしれないけ  
ども、そこの許認可もどうなのか、ちょっとその辺は  
返事はできませんよってというような話だったんです。  
それが、やっぱりこういう形で道の駅、そこから引き  
おろしたとしても道の駅っていう形で望んでいくって  
いうのは、これ、大変素晴らしいことで、これは、当  
局だけじゃなく、議会とそれから市民総ぐるみでこれ  
は誘致運動していかなくちゃ、これは不可能なことだと  
私は思います。

いずれ、こうやっていかないとほかの話して気の  
毒だけでも、普代のような形に、大変失礼だけでも、  
そういう形になって残される要素は十分にあるわけで  
ございますから、このことに関しては、本当にしっかり  
腰据えて、それこそ広域を本当に巻き込めれば、こ  
れは幸いでありますけども、いずれそっちのほうにも  
力を注ぎながら、この実現に努力していただきたいと、  
このように思います。

私も、私の立場で、私のできる範囲で十分に協力し  
ていきたいと思っておりますので、ひとつ頑張っていた  
きたいと思います。

終わります。

○議長（中平浩志君） 再質問、関連質問を打ち切  
ります。

この際、暫時休憩いたします。再開は、午後3時30  
分といたします。

午後3時14分 休憩

午後3時30分 再開

○副議長（桑田鉄男君） 休憩前に引き続き会議を開  
きます。

一般質問を継続します。

次に、社会民主党、豊巻直子君。1番豊巻直子君。

〔社会民主党豊巻直子君登壇〕

○1番（豊巻直子君） 社会民主党の豊巻直子です。  
9月に引き続いて、個人質問をさせていただきます。

まず、最初に、小中学校の教育予算につきまして、

お礼を申し上げます。

学校で使っているカラープリンターのトナーなどの  
消耗品費を、それまで教育委員会で払っていただい  
ていたものを学校で支払わなくてはならなくなり、大変  
困っていたのですが、11月に追加予算が配当されまし  
た。小学校でも中学校でも大変喜んでおります。ありが  
とうございました。

また、山形の診療所では、吉田順子医師が副所長と  
して着任され、山形診療所の医師体制が2人になった  
ことは、本当に素晴らしいことだと思います。週3回  
久慈病院にも来てくださっているということで、感謝  
をしています。この間の久慈市の取り組みに敬意を表  
します。

それでは、質問に入らせていただきます。

1つ目の質問は、産婦人科の充実についてです。

先日、議会報告会が行われました。全部で8カ所、  
1人の議員が2カ所ずつ、市民の皆様からお話を伺う  
ことができました。私も2カ所行ったわけですが、  
どちらの箇所でも出たお話は、産婦人科のことで  
した。

あるお母さんはおっしゃいました。自分の子供は久  
慈に住みたいと、小さいときから言っていた。けれど  
も、安心して赤ちゃんを産むことができない。残念だ  
けれども、夫婦で盛岡に行くしかないと言って、盛岡  
に移住していったということでした。

それから、もう一つの場所では、リスクのある分娩  
は久慈ではできないそうですね。そうなるのと、どうな  
るのかという質問でした。二戸に搬送されること  
になりますとお答えしたところ、時間がかかりますよ  
ね、リスクがあるということは危ない、難しい分娩と  
いうことですね。1時間以上かかって山道を揺られて連  
れていかれるというのは大変なのじゃないかという話  
が出ました。

会場にいたほかの議員さんが、救急車で運ばれる、  
看護師さんが乗って救急車で運ばれるということもあ  
るし、今はドクターヘリもあるんですよってというお話  
をなさっていました。

市民の方が心配していらっしゃる、久慈市の医師の  
確保を含めた産婦人科の充実について、当市の取り組  
み状況と今後の見通しを教えてくださいたいと思いま  
す。

竹下さんがお産を3月で終了するというので、前

にも何人かの議員の方が質問されておりましたけれども、竹下産婦人科さんは年間おおよそ300人の赤ちゃんを取り上げていたそうです。そうすると、普通に考えて、その300件のお産をこれからどうやって取り上げていくかというような見通しも含めて、教えていただければと思います。

2つ目です。子ども・子育て支援について、2つお伺いします。

久慈市で作成された久慈市子ども・子育て支援事業計画という冊子があるんですが、その71ページ、基本目標4「特別な支援が必要な子どもへの配慮」に掲げる新規の事業、養育支援訪問事業というのがあるんですけども、その取り組み状況について教えてください。

子ども・子育て支援の2つ目です。

次世代育成支援対策推進法という法がありますが、その中でその法は、事業主に対し、多様な労働条件の整備と職業生活と家庭生活との両立が図られるようにするために必要な雇用環境の整備を求めています。

久慈市では、事業主に対し、仕事と子育ての両立が図られるよう働きかけるとのご答弁を9月議会でいただきました。現在12月ですので、この3カ月間で具体的にどのような働きかけを行ったのか教えてください。

3つ目の質問です。小学校の遊具についてです。

市内の小学校の遊具が不足していると思われませんが、遊具設置に対する考え方について教えてください。

実は、久慈市、洋野町、野田村、普代村の小学校の遊具の保有状況を調べました。久慈市と久慈市以外の町村では、保有状況が大きく異なりました。

例えば、ブランコ。久慈市以外の町村では100%に対して、久慈市が20%。シーソー、その他の町村が40%に対して、久慈市は26%。滑り台、その他が60%に対して、久慈市は13.3%。ジャングルジムは、その他が100%に対して、久慈市は40%などとなっております。

一つ一つの遊具は大変高価なものです。一度に全部の学校でそろえるということは難しいのだと思います。1つずつでもいいので、そろえていくというお考えがあるかどうか教えてください。

4つ目です。4つ目は、教職員の労働安全衛生体制の確立についてです。

1つ目は、平成26年度4月から、市内小中学校教職

員の時間外勤務の把握調査が行われております。9月の議会でも一度教えていただいたんですが、9月以降の部分の時間外勤務の実態について教えてください。

2つ目です。時間外勤務が月80時間を超える教職員に対し、産業医による面接指導を行わなければならないことになっていますが、実際に80時間を超えた教職員に対して、面接指導を行ったかどうか教えてください。

3つ目です。県の教育委員会は、平成28年4月から労働安全衛生体制の確立を求めています。当市ではどのような取り組み状況になっているか、教えてください。

5つ目の質問です。教職員の確保です。

実は、現在久慈市内の4つの学校で、先生方の代替が入っていない状況があります。お産のために休んでいる先生の代替、それから体調を崩して休んでいる先生の代替等の確保が行われていないというふうに聞いていますが、その実態はどのようになっているでしょうか。

また、代替の教員を早急に配置すべきと思いますが、今後の見通しを教えてください。

最後の質問です。小中学校のトイレの洋式化についてです。

先日行われた、久慈市社会福祉大会で表彰された福祉作文にもありました。中学生の子供さんが作文を読んでいた。けがをして、つえをつきながら歩かなければならなかったり、車椅子に乗って移動しなければならなかったり、トイレがその中学校は全部和式だったそうです。とても苦勞したという話を、その子供さんはおっしゃっていました。

けがをした生徒にとっては、洋式トイレはぜひ必要な設備となると思います。現在、洋式トイレの設置状況はどうなっているかということ、今後の整備計画を教えてください。

以上で、質問を終わります。

○副議長（桑田鉄男君） 遠藤市長。

〔市長遠藤譲一君登壇〕

○市長（遠藤譲一君） 社会民主党、豊巻直子議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、産婦人科の充実についてお答えをいたします。

県立久慈病院の産婦人科体制の強化等につきまして

は、昨日の市民共同代表、畑中議員ほかにお答えいたしましたとおり、久慈広域の町村とともに10月には岩手医科大学に、また11月には岩手県に対して要望活動を実施したところであります。

今後の見通しについてであります。産婦人科医師不足につきましては、全国的にも深刻な問題となっており、厳しい状況の中にもありますが、引き続き関係機関と連携して要望活動を実施してまいります。

また、当市にゆかりのある医師及び医大生へ市内医療機関への就労を働きかけるとともに、将来医師を目指す生徒の育成を目的とした地域医療人材育成事業を教育委員会、保健所等と連携して取り組んでまいります。

次に、子ども・子育て支援についてお答えいたします。

まず、養育支援訪問事業についてであります。久慈市子ども・子育て支援事業計画策定にあわせ、平成17年4月から平成27年3月まで推進してまいりました次世代育成支援行動計画の見直しを行った中で、これまで実施しておりました養育支援訪問事業を、特別な支援が必要な子供への配慮・支援の方策として新たに位置づけたものであります。

養育支援訪問事業の取り組み状況についてであります。平成27年11月現在での対象数は18人、訪問件数は17人となっており、今後も関係機関と連携を密にし、特別な支援が必要な子供やご家庭に対する支援を行ってまいります。

最後に、市から事業主に対する仕事と子育てが両立できるような働きかけについてであります。厚生労働省が実施している、従業員の仕事と家庭の両立支援に取り組む事業主などに助成する両立支援等助成金制度について、市の広報紙やホームページに掲載をし、事業主における両立支援の取り組みが促進されるよう周知を図っているところであります。

また、事業所訪問や企業との懇談会などの機会を捉えて、趣旨が体现されるよう働きかけを行ってきているところであります。

今後におきましても、久慈公共職業安定所等の関係機関と連携し、子育てに配慮した雇用形態が実現できるよう積極的に取り組んでまいります。

以上で、社会民主党、豊巻直子議員に対する私からの答弁を終わります。

○副議長（桑田鉄男君） 加藤教育長。

〔教育長加藤春男君登壇〕

○教育長（加藤春男君） 社会民主党、豊巻直子議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、市内小学校の遊具設置に対する考え方について、お答えをいたします。

市内小学校の遊具につきましては、老朽化による撤去に伴い、不足している学校があると認識しているところであります。

このことから、今後の遊具設置につきましては、各校の設置状況と要望を踏まえながら、年次計画を策定し、整備に努め、児童の体力の向上や社会性の育成を図ってまいります。

次に、教職員の労働安全衛生体制の確立について、お答えをいたします。

市内小中学校の教職員の時間外労働の実態であります。まず、9月から11月にかけての各学校の時間外勤務の状況については、報告のあった小学校14校においては、平均時間で約1時間から約37時間、中学校8校においては、約13時間から約50時間となっております。

なお、最も多かった教職員の時間外勤務時間は100時間を超えております。これは、新人戦や文化祭等の行事などが要因であり、行事終了後は時間外勤務が減っているとの報告を受けております。

次に、時間外勤務が月80時間を超える教職員への産業医による面接指導についてであります。久慈市立小中学校教職員の長時間労働による健康障害防止のための保健指導実施要領に基づき、おおむね月80時間を超える時間外勤務により、心身の疲労の蓄積が認められるなどの教職員に対し、産業医の資格を有する医師による診察、保健指導等を行っているところであります。

また、労働安全衛生体制確立の取り組み状況についてであります。本年8月、県教育委員会から、関係労働者の意見を聞くための機会を設けるなどの体制整備を推進したい考えが示されたことから、現在、他市教育委員会等と情報交換しながら、安全衛生管理規程の改正等を検討しているところであります。

次に、教職員の確保についてのご質問にお答えをいたします。

今年度、市内小中学校の教員で、産前・産後休暇及び育児休業取得者は、23校中8校16人であり、そのう

ち1人は復職しております。

また、病気休暇取得者は4人であり、そのうち1人は復職しております。

産休、育休、病休における代替教員の配置状況であります。現在、産休補充に1人、病休補充に1人、合計2人が配置できていない状況であります。

配置については、県北教育事務所を通じて、産休、育休取得予定の半年以上前から、全県的に人材の確保に努めているところですが、代替教員の確保に至っていない状況であります。今後も県への働きかけを続け、早期に代替教員を配置できるよう努めてまいります。

最後に、小中学校のトイレの洋式化についてであります。洋式トイレの設置状況は、小学校はポータブル式の1校を含め15校全校、中学校は8校中7校に設置しているところであります。

今後の整備計画につきましては、衛生的で快適な学習環境を確保する観点からも、優先的に取り組むべき課題と捉えているところであり、財源の確保を図りながら、トイレの洋式化を含む老朽化対策に努めてまいりたいと考えております。

以上で、社会民主党、豊巻直子議員に対する私からの答弁を終わります。

○副議長（桑田鉄男君） 再質問を許します。1番豊巻直子君。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

1番の産婦人科の充実について、再質問をします。

先日、久慈広域の議員研修会がありました。久慈病院の院長先生のお話をお聞きすることができました。

そのお話の中で、産婦人科医というのはどこでも足りなくて、来ていただくのに長い時間がかかるかもしれないというお話がありました。そこで質問をさせていただきました。実際に久慈病院の産婦人科の外来に行くと、お医者さんはもとよりですが、助産師さんが非常によく患者さんというか、来られた妊婦さんと話をしたり、対応されているなど思いましたので、チームはどのようにつくられているのですかというふうにお聞きしたところ、助産師さんにいろいろな仕事をお願いしているところはすごく多いということをおっしゃっていました。

自然分娩であれば、妊娠中からお産、そして産後に至るところまでケアをしてくれるのが助産師さんだということ、それから、人数を来年ふやす見通しがある

というようなお話もお聞きし、少し安心だなあというふうに思いました。

あと、広域で市長さんが、県とか医大のほうに要望に行かれているというお話でしたけれども、そういうお話の中でなのか、違う機会なのかわからないんですが、竹下先生が1週間に一度ぐらい、県立病院で診てくださってもいいというお話もちらっと聞こえてきたのですけれども、そのような認識でよろしいでしょうか。お伺いします。

○副議長（桑田鉄男君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 竹下先生からは、私も直接、自分の病院のほうでは取り扱いはやめたいという、やめますということでしたが、久慈病院のお手伝いについては、私も積極的に行きますというふうなお話をお聞きしております。その旨は、久慈病院の院長先生にもお伝えしておりますので、あとは病院の体制として、どういうふうになれるかということでございます。

竹下先生は、やめて終わりということじゃなくて、やはり久慈の出産体制、非常に心配をされてると。ただ、自分1人では病院の対応ができないというお話もありましたので、そこら辺がうまく協力関係築ければいいなというふうに思っております。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子君。

○1番（豊巻直子君） どうもありがとうございます。すごく心細くなっていたところを救われる思いであります。ありがとうございます。

それから、もう一つなんですが、リスクのある分娩で一刻を争うというとき、ドクターヘリを要請することは可能なのでしょうか。議会報告会の中では、八戸から久慈にヘリが飛んできて、そして患者さんを乗せて盛岡まで運んで緊急の手術をしたという、それは産科のお話ではないんですけども、県境を越えて飛んできて、そして岩手県内の病院に搬送したという事例なんですけれども、そういうことは妊婦の場合も可能なのでしょうか。教えていただければありがたいです。

○副議長（桑田鉄男君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 妊婦のドクターヘリによる搬送というご質問でございますが、それはもちろん可能であると認識はしております。

以上です。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子君。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

実は、うちの娘も、この間、竹下さんにかかっていたんですけども、34週で破水してしまって、早産ということで、竹下さん、日曜日でしたけども、対応してくださいったんですが、37週前までだと久慈では無理だよと言われて、結局、二戸の病院に救急車で搬送されました。1時間以上かかる中、もう破水してしまっているという状態で、非常に心配しながら行きましたが、その後、二戸の病院、そして戻ってきて久慈病院のお世話になって、おかげさまで母親も子供も無事で大きくなりました。抱っこして重くて、とても大変なぐらい大きくなりました。

母親の身になってみれば、本当にこのお産安心してできるかどうかということが、とても大事なことだと思います。できることは限られているのかもしれませんが、院長先生のお話にもあったように、スタッフがすごく頑張っているから、市民の皆さんも議員さんもサポートしてくださいっていうふうにおっしゃっていて、本当にそのとおりだなというふうに思います。みんなの力で、久慈の地で安心して子供が産めるというふうな状況をつくっていければいいなと思います。ありがとうございました。

次は、子ども・子育て支援についてでございます。

先ほど市長さんのお話で、同じような活動はしていたんだけど、その名称を変えて、新たな位置づけということでやられているというふうにお聞きしました。

子育て、子供たちも少なくなっているということは、母親の数も少ないということで、子育てで孤立してしまうというのはよくあることだろうなと思います。働いていれば、まだいいです。働いていれば、職場に出て、職場の誰かと話をして、困ったことを聞いたり、先輩から教えられたりすることができますが、そうじゃなくて、家で1人で子育てをしている、おじいちゃん、おばあちゃんもいらっしやらないというおうちでは、本当にお母さんは心細い気持ちで子育てをしていると思います。

そういう意味で、お母さんと赤ちゃんが生活している場所まで出向いて行って、育てている状況を実際に目で見て、そしてアドバイスをしていただけるというこの事業は、すごく大事な事業だなと思います。ぜひ、これからも充実してやられていくことを期待して

おります。

次は、次世代育成支援対策推進法の話ですけれども、働きながら子育てを今度はそのことの大変さということなんですが、なかなか仕事が大変で、うちに帰ってから子育てをしたり、家事をしたりというのが大変なわけですけれども、そこを何とか両立させようということで、ちょっと朝日新聞に載っていた記事を引用させていただきます。

ITサービス大手のSCSKという、ちょっと私はわからない会社でしたけれども、その社長さんがおっしゃっていました。我が社はブラック企業の筆頭だったそうです。職場で寝泊まりしている人がいたそうです。そうなんですけど、この方の、この社長さん、新しく社長さんになった方の娘さんが、産後休暇を切り上げられて、8カ月で職場に戻られたそうです。自分の娘のことを考えたとき、自分の職場の働き方は、これではだめなんじゃないかというふうに考えて、残業時間を減らすことをやられたそうです。

そうすれば、女性が働き続けられ、共働きの夫婦が子育てできる職場の実現ができるというふうに考えるようになったそうです。

残業時間を実際に削減し始めて、残業時間がそれでも多い部署には、次の四半期に半減、半分にするのを求めたそうです。浮いた事業費、残業代は、社員に還元して給料が下がらないようにしたそうです。08年に平均残業時間が35時間だったのが、今2015年では、20時間以下に減ったと。2015年から増収と経常増益が続いているというようなことでした。

長く働いていけば利潤を上げることができるかといえば、そうではないということなんだそうですし、働いている人も、働きやすく、そして子育てもやりやすいというお話なんだなというふうに読みました。

次は、小学校の遊具についてです。

教育長さんが、不足しているという認識はしているということと、それから今後、学校からの要望を聞いて、年次計画を立てて設置をしていくというふうに答えていただきました。ありがとうございます。

確認なんですけれども、実は同じような質問を6月の議会に梶谷議員が行ってしまっていて、その中では、学校からの要望というのが、学校からいつも出している教育予算の項目の中に、遊具も含めて要望してくださいという中身だったんですが、実は遊具はすごく高く

て、それを教育予算の中に入れてしまうと、ほかのものが計上できないというようなことがあって、それはちょっと無理だという話をしていたところがあったので、それとは別に遊具の要望を出してもよいというふうに受け取ってよろしいでしょうか。お願いします。

○副議長（桑田鉄男君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 前議員の梶谷さんから、そういったご質問をいただきまして、そういった学校からの実際的には要望が上がっていないというご答弁をした経緯がございます。

それで、今回の遊具の要望については別口で、この間、教育委員会の中で、各学校から要望、希望とかの調査を、現在設置してある施設とか、それから今後要望したい施設、それから第1から第3ぐらいまでの機種を取りまとめたところです。

それで、先ほど教育長のほうからもご答弁申し上げましたけれども、その中で、鉄棒は全校にあるんですが、それぞればらつきがあるということで、希望をとりながら、それから今の教育委員会の中では計画を今立てたところなんです、5年計画ぐらいで、そして、まず第1希望のところを設置が少ないところから、小学校を優先的に順次設置していきたいという考えを持っております。

予算も絡むことですので、一気にということではなかなかありませんけれども、そういった形で、新年度の予算の要求等もさせていく予定でございます。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子君。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

それでは、順番に設置していただけるということで、とても安心しました。ありがとうございます。

小学校に遊具がないと、公園にも余り遊具がないので、巽山公園にある滑り台とかぐらいしかないのですが、本当に1回も、例えばジャングルジムに登ったことがないとか、1回もブランコしたことがないという子供が出てきたら大変だねという話をしたので、本当にうれしいです。ありがとうございます。

それでは、教職員の労働安全衛生体制の確立についてです。

先ほど、教育長にご答弁をいただきました。ありがとうございます。

80時間を超える時間外の勤務をした者に対して、産業医による面接指導は行ったということで、ありがた

いなというふうに思いました。

本人が産業医によって面接指導を受けるということと、それから80時間以上働いてしまった職場、そういう働き方をしている学校に対しての指導の必要性はどうだったでしょうか。必要性があるんじゃないかなと思うんですが、どのようにお考えですか。

○副議長（桑田鉄男君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 議員もおわかりだと思いますけれども、教職員の勤務時間というのは、なかなか難しゅうございまして、一生懸命やればきりがないというふうな仕事でございます。

特に、授業の準備、いわゆる教材研究等につきましては、何時間やっても満足できないという場合もございます。そうしますと、相当長い時間、学校に残って準備するという場合も出てまいります。その一生懸命さには頭が下がるわけでございますが、私、校長に、ある程度もう時間の中でできることをやることも必要なんだと、そういうふうに教職員を指導してくれというような話をしております。

やっぱり教員は、無理し過ぎて余裕をなくしたり、あるいは体を壊しては元も子もありませんので、そういう形で校長には指導をしてもらっております。校長も長時間労働、いわゆる長時間勤務の職員に対しては声をかけてくれていますし、副校長、校長と副校長、特に副校長の場合が多いんですけども、そういう形で管理職が指導しております。

最近も秋になりまして、ほとんどの学校が大体もう7時ぐらいには閉まっているというふうな状況でございますが、大きな学校等につきましては、やはり遅くまで残って仕事する教員もいるというふうに伺っておりますが、そういう教員については個別に指導するように、校長には、先日も全校長と面談いたしまして、そのお願いなり、話はしたところでございます。

以上でございます。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子君。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。つつい長くなってしまう勤務時間ですけれども、指導していただいてありがとうございます。

9月9日に岩手県教育委員会は、教職員をめぐる安全衛生管理研修会を行っています。県内の高等学校からは、1人ずつ事務長さんがいらっしゃった学校が多かったです。それから、それ75人ですね。小中学校は、

各市町村教育委員会から1人ずつ、合計で32人が参加しています。久慈市からも、教育総務課から1人参加しています。

内容は、労働安全衛生管理の基本、職場の環境の衛生的改善と疾病の予防、メンタルヘルス対策、労働安全衛生管理体制の構築という内容で行われております。

その中で、先ほど教育長さんがおっしゃった、職員から意見を聞く場を設けなさいと。そういう場を設ける、衛生委員会という名前と呼んだりしますけども、そう呼ばないとしても、そういう機会を職場で設けるようにということが、その中に入っていたのですが、やり方が2つあって、学校を1つの事業所として、学校の中でそういう衛生委員会をつくる方法と、久慈市を1つの事業所としてみて、久慈市に衛生委員会を1つつくって、そこにそれぞれの学校から人を集めてやる方法とあるんですが、久慈市で今検討しているのはどちらの方法でしょうか、教えてください。

○副議長（桑田鉄男君） 澤里教育部長。

○教育部長（澤里充男君） 県のほうからも、そういった労働安全衛生体制の確立をということで、指導といますか、通知があったところでございます。

それで、先ほど教育長からもご答弁申し上げましたとおり、その中身については今検討しているということで、その検討内容については、まずもって産業医の選任についてはやっていきたいというふうに考えておりますし、安全衛生委員会の設置についても、これは各団体、各県内の各教育委員会の状況等も勘案しながら、どちらがいいか、今検討しているところでございますが、県のほうとしては、できるだけ市内全域を対象とした委員会の設置というような意見をいただいているところでございまして、それらも考慮しながら、今検討してまいりたいと考えております。

そのほかに、もう一つとすれば、それを設置した段階においては、時間外労働時間等の把握についても、定期的な調査という形でやっていく形にもっていききたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子君。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。わかりました。

市内全域をということで、大きな形での衛生委員会ができる可能性があるのだからというふうに受け取り

ました。ありがとうございます。

代替教員のところで、少し聞かせてください。時間がないところですけども、すみません、私がつかんでた数字よりも、実際に入っていない数字が少なかったので、きっと病休が終わられて戻られたのかなというふうに思います。

代替が入らないとどうなるかということ、ちょっと皆さんに知っていただきたいと思います。

例えば、ある中学校では、中学校は教科担任制なので、ある教科の先生が1人お休みになると、その先生が持たれていた学年のその教科を、違う学年を教えている先生が手分けをして教えることとなります。

そうすると、1週間のこま数っていうのがあるんですけど、それが今、中学校は29こまあるんです。それのうち、20ぐらい授業持ってた、もともとは持っていた方が、ぎりぎりもう28とか27とか持って、それでも1人で持ちきれないから、ほかの先生も、例えば教務のお仕事をしながら、それを持ってということになります。

そうすると、もともと自分がそうしたら、持っていた教科をほかの先生に代わってもらおうということも出てきます。そのために、自分の学級の子供と接する時間が短くなってしまったりとか、すごく不都合なことがたくさん出てきます。

なので、なるべく早くその代替者が入ってほしいなと思いますが、久慈市の教育委員会が頑張っても、全県の状況が結局探してもいないという状況で、となると、今の正式採用じゃなく、臨探でたくさんの先生を雇っている、こういう体制が、つまり先生方の、空いている先生をなくしてっていう状況をつくっている大もとだと思います。待機してる人がいないという状況になっています。

すみません、時間オーバーしました。ありがとうございました。

○副議長（桑田鉄男君） 再質問を打ち切ります。

~~~~~

散会

○副議長（桑田鉄男君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

午後4時11分 散会